
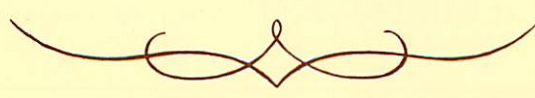


大阪臨床整形外科医会会報

The Journal
of
The Osaka Clinical
Orthopaedic Association



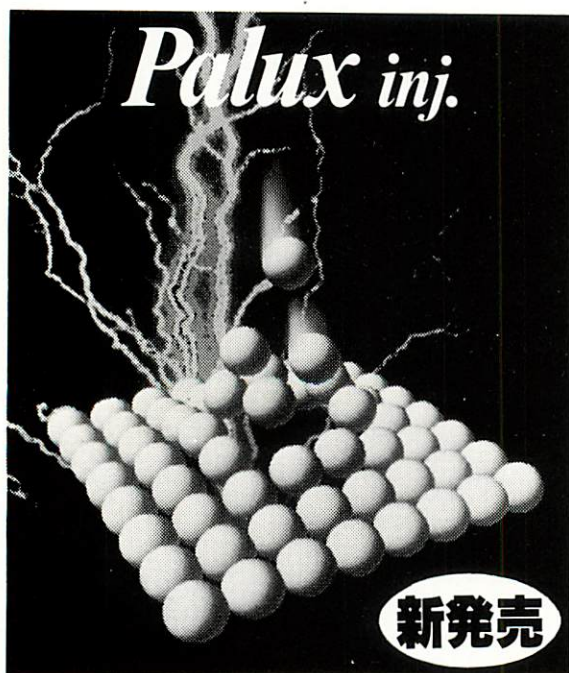
第10号
平成元年6月



プロスタグランジンDDS製剤

病巣血管へターゲティング

One Shotで確実な効果



静注用プロスタグランジンE₁製剤

パルクス®注

健保適用 劇指要指 アルプロスタジル注射液

●製品特長

1. PGE₁+微細脂肪粒子担体を開発(リポ化)
——PGの活性維持・肺での失活を回避
2. 病巣血管集積性
——強力な抗血小板・血流増加作用を局所で発揮
3. 潰瘍・四肢疼痛の早期改善——効果の持続
4. 治療操作性の向上——One Shot 静注
5. 副作用の軽減——注入局所の刺激性

〔効能・効果〕

- 慢性動脈閉塞症(バージャー病、閉塞性動脈硬化症)における四肢潰瘍ならびに安静時疼痛の改善
- 下記疾患における皮膚潰瘍の改善
進行性全身性硬化症
全身性エリテマトーデス
- 振動病における末梢血行障害に伴う自覚症状の改善ならびに末梢循環・神経・運動機能障害の回復
- 動脈管依存性先天性心疾患における動脈管の開存

〔警告〕

動脈管依存性先天性心疾患(新生児)に投与する場合には本剤投与により無呼吸発作が発現することがあるので、呼吸管理設備の整っている施設で投与すること。

〔使用上の注意〕

1. 一般の注意

- (1)慢性動脈閉塞症(バージャー病、閉塞性動脈硬化症)、進行性全身性硬化症、全身性エリテマトーデス、振動病の患者に適用する場合には、次の事項を考慮すること。

1)本剤による治療は対症療法であり、投与中止後再燃することがあるので注意すること。

- (2)動脈管依存性先天性心疾患の新生児に適用する場合には、次の事項を考慮すること。

1)重篤な疾患を有する新生児への投与なので、観察を十分に行い慎重に投与すること。なお、副作用が発現した場合は、投与中止、注入速度の減速など適切な処置を講ずること。

2)無呼吸発作が発現することがあるので、投与中は呼吸状態の観察を十分に行い、発現した場合は投与を中止するなど適切な処置を講ずること。

3)過量投与により副作用発現率が高まるおそれがあるため、有効最小量で維持すること。

4)長期投与により長管骨膜に肥厚がみられるとの報告があるので、観察を十分に行い、必要以上の長期投与は避けること。

2. 次の患者には投与しないこと

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人。

3. 次の患者には慎重に投与すること

(1)心不全の患者(心不全の増強傾向があらわれるとの報告がある)。

(2)緑内障、眼圧亢進のある患者(眼圧を亢進させると報告がある)。

(3)胃潰瘍の合併症及び既往症のある患者(既往のある患者に胃出血を認めたとの報告がある)。

(4)間質性肺炎の患者(間質性肺炎を増悪させる可能性がある)。

※用法・用量、その他の使用上の注意等は、添付文書をご参照下さい。

資料請求先



大正製薬株式会社

〒171 東京都豊島区高田3-24-1 ☎(03)985-1111

目次

巻頭言	伊藤成幸	1
OCOA総会報告	第12回OCOA定時総会及び研修会	2
諸会議の報告	I JCOA平成元年第1回各県代表者会議	伊藤成幸 13
	II 第6回JCOA全国保険審査委員会	服部良治 18
	III 第16回JCOA近畿ブロック会	大橋規男 21
	IV 日整会63年度評議員会	伊藤成幸 21
	V 大阪府医師会医学会運営委員会	大橋規男 23
研修会報告	「関節内骨折」 京都府立医科大学整形外科教授 榊田喜三郎	24
新役員の抱負	抱負	小松堅吾 27
	OCOAとの出会い	柴田辰男 28
	雑感	堀木 篤 28
	OCOA理事に就任して	越宗正晃 29
	つぶやき	大竹節郎 29
	JCOA常任理事に就任して	坂本徳成 30
大阪府医師会便り		河合秀郎 30
随想	松江礼賛	原 卓司 32
厚生部だより	昭和63年度OCOA秋季ゴルフコンペ	34
	平成元年OCOA春季ゴルフコンペ	36
日本理学診療医学会入会のおすすめ		38
	第1回日本理学診療医学会幹事会報告	38
	日本理学診療医学会発足集会報告	39
	設立にいたる経過説明	40
	設立趣意書	41
	日本理学診療医学会会則	42
OCOA理事会議事録		44
会員名簿補追		46
お知らせ		47
	(I) 第2回学術研修会	
	(II) 第3回学術研修会	
	(III) 第13回OCOA総会及び研修会	
	(IV) 第11回ゴルフコンペ(秋季)	
	(V) 第5回OCOA親睦旅行	
編集後記		48

巻 頭 言

大阪臨床整形外科医会会長

伊 藤 成 幸

JCOA大阪研修会が、林原明郎、坂本徳成先生をはじめ、多くの先生方の御協力によって成功裏に終了したあと、昨年末のOCCOAの総会で、坂本前会長のあとをひきついで、三代目のOCCOA会長を、お引き受けしました。会長就任以来やっと、半年程にしかありませんが、私にとっては、相当長い日時が、経過したように感じられます。その間、不慣れな私は、右往左往して無駄な行動をしていたようです。最近、少しづつ慣れて、JCOA、OCCOAの中味が、なんとなくわかりかけてきたような気がします。



昭和から平成への改元と、時を同じくして私どもの新しい執行部が発足しましたが、現在、その内外に、大変な問題が山積しています。外では、私達に直接関係する消費税の問題。内では、日整会の理事長制の導入、整形外科認定医制度の発足、さらに、整形外科と、その境界域での問題、すなわち、リウマチ医、リハビリテーション医、スポーツ医、等々、非常にむつかしく、しかも重要な問題が、枚挙にいとまがない程、私どもの周辺に渦巻いております。

能力の乏しい私ですが、幸にして、前会長の坂本先生が、今回、日整会のスポーツ委員会の委員に就任され、また御存じのように、社会保険等委員会に、反田英之先生が委員としてすでに活躍しておられます。勿論、JCOAからは、各委員会に、多数の先生方が入って、活躍されておられますが、私どもOCCOAからも、このように小人数ではありますが、中央の委員会等に出席されて、中央とのつながりが保たれ、その結果、情報の入取も、多方面からできるようになってきております。

これ等の情報をもとにして、副会長の大橋、小杉先生はじめ、各理事の先生方の御努力によって、新執行部による会務が、スムーズな滑り出しを見せております。これは前回の会長以下各旧理事の先生方が、やってこられたことが、基礎にあったからです。これからも会員の皆様の温い御支援をお願い申し上げ、私のモットーである「和」を中心としてこの会が、ますます発展することを祈念したいと思います。

O.C.O.A 総会報告

第12回大阪臨床整形外科医会定時総会及び研修会

日 時：昭和63年11月26日(土)

場 所：太閤園(2階ゴールデンホール)

- (I) 総 会 午後3:00~4:00
1. 開会宣言 司 会 吉田 副 会 長
 2. 会長挨拶 坂 本 会 長
 3. 議 事 議 長 松尾 先生 副議長 安藤 先生
 - 第1号議案 昭和63年度庶務及び事業報告について承認を
求める件 三橋 副 会 長
 - 第2号議案 昭和63年度収支決算について承認を求める件
篠原・松矢 理 事
 - 第3号議案 昭和64年度事業計画案について承認を求める件
吉田 副 会 長
 - 第4号議案 昭和64年度収支予算案について承認を求める件
篠原・松矢 理 事
 - 第5号議案 昭和64年度新役員選出について承認を求める件
坂 本 会 長
 4. 新役員の紹介と挨拶
 5. 坂本会長への感謝状と記念品の贈呈と挨拶
 6. 閉会宣言 吉田 副 会 長
- (II) 研 修 会 午後4:00~6:00
- 講 演 座長 瀬戸 理 事
- 「関節内骨折について」
京都府立医科大学教授 神田 喜三郎 先生
- 新薬紹介 座長 服部 理 事
- (III) 懇 談 会 午後6:00~7:30
- 司 会 村上 理 事
河合 理 事
古賀 理 事
長田 理 事

I 昭和63年度OCAO庶務及び事業報告

1) 会 員 状 況

期首 (62.11. 1) 177名 期末 (63.10.31) 195名
退会者 0名 (休会者 1名)

2) 会議開催状況 (昭和62.11. 1~63.10.31)

① 総会 第11回OCAO定時総会 (62.11.28)

於：東天紅 (大阪マーチャンダイズマート20階)

② 定時理事会 4回 (1/23, 4/16, 7/23, 9/17)

③ その他諸会議出席状況

62.11. 4 府医師会交通事故医療委員長 (坂本) 於 府医師会館
62.11.12 第15回JCOA大阪研修会第3回発起人会
於 ニュージャパン8階
62.11.20 府医労災部会役員会 (平山、河合、坂本) 於 府医師会館
62.11.21 府医労災医療研修会 (平山、河合) 於 府医師会館
62.11.30 府医師会医学会運営委員会 (吉田) 於 府医師会館
62.12. 6 第5回JCOA全国保険審査委員会 (服部) 於 東京
62.12.10 府医師会交通事故医療委員会 (坂本) 於 府医師会館
62.12.18 府医労災部会役員会 (平山、河合、坂本) 於 府医師会館
62.12.28 府医師会医学会運営委員会 (吉田) 於 府医師会館
63. 1.14 府医労災部会役員会 (平山、河合、坂本) 於 府医師会館
63. 1.16 府医師会医学会運営委員会 (吉田) 於 府医師会館
63. 1.21 府医師会交通事故医療委員会 (坂本) 於 府医師会館
63. 2.18 府医師会交通事故医療委員会 (坂本) 於 府医師会館
63. 2.19 府医労災部会役員会 (平山、河合、坂本) 於 府医師会館
63. 2.22 日整会社会保険等委員会 (反田) 於 東京
63. 2.22 府医師会医学会運営委員会 (吉田) 於 府医師会館
63. 3.10 府医労災医療研修会 (平山、河合) 於 府医師会館
63. 3.13 JCOA各県代表者会議 (坂本) 於 東京
63. 3.17 府医師会交通事故医療委員会 (坂本) 於 府医師会館
63. 3.18 府医労災部会役員会 (平山、河合、坂本) 於 府医師会館
63. 3.26 第14回JCOA近畿ブロック会議 (三橋)
於 大阪ロイヤルホテル
63. 3.28 府医師会医学会運営委員会 (吉田) 於 府医師会館
63. 3.31 日整会昭和62年度評議員会 (伊藤) 於 京都
63. 4. 2 JCOA総会 (坂本) 於 京都
63. 4.23 JCOA文化公報委員会 (瀬戸) 於 東京

63. 4.25 府医師会医学会運営委員会（大橋） 於 府医師会館
63. 5.12 第15会JCOA大阪研修会第4回発起人会
於 ホテル一栄
63. 5.23 府医師会医学会運営委員会（大橋） 於 府医師会館
63. 6.17 府医労災部会役員会（平山、河合、坂本） 於 府医師会館
63. 6.19 JCOA学会学術集会 於 東京
63. 6.21 府医師会交通事故医療委員会（坂本、古賀、越宗）
於 府医師会館
63. 6.27 府医師会医学会運営委員会（大橋） 於 府医師会館
63. 7. 4 第15会JCOA大阪研修会第5回発起人会
於 ホテル一栄
63. 7.15 府医労災部会役員会（平山、河合、坂本） 於 府医師会館
63. 7.19 府医師会交通事故医療委員会（坂本、古賀、越宗）
於 府医師会館
63. 7.25 府医師会医学会運営委員会（大橋） 於 府医師会館
63. 7.29 第15会JCOA大阪研修会ゴルフ小委員会
於 パーマリーホテル
63. 8.29 府医師会医学会運営委員会（大橋） 於 府医師会館
63. 9. 7 府医師会交通事故医療委員会（坂本、古賀、越宗）
於 府医師会館
63. 9.14 日整会社会保険等委員会（反田） 於 東京
63. 9.16 府医労災部会役員会（平山、河合、坂本） 於 府医師会館
63. 9.20 第1回府医スポーツ医学検討委員会（河合、坂本）
於 府医師会館
63. 9.26 府医師会医学会運営委員会（大橋） 於 府医師会館
63. 9.29 第15会JCOA大阪研修会第6回発起人会
於 ホテル一栄
- 63.10.8~10 第15会JCOA大阪研修会 於 大阪ロイヤルホテル
- 63.10.18 第2回府医スポーツ医学検討委員会（河合、坂本）
於 府医師会館
- 63.10.20 府医師会交通事故医療委員会（坂本、古賀、越宗）
於 府医師会館
- 63.10.21 府医労災部会役員会（平山、河合、） 於 府医師会館
- 63.10.24 府医師会医学会運営委員会（大橋） 於 府医師会館

④ 研修会

- 62.11.28 「股関節疾患の種々相」
奈良県立医科大学整形外科教授 増原 建二 先生
63. 5.28 「高齢者の腰椎疾患に関する2, 3の知見」

高知医科大学整形外科教授 山本 博司 先生
「小児の歩容異常について」

大阪大学整形外科助教授 広島 和夫 先生

63. 7. 9 「末梢神経損傷の診断と治療」

京都府立医大整形外科助教授 平澤 泰介 先生

「身体障害者スポーツ（日整会S—25）」

大阪市立大学整形外科 大久保 衛 先生

63.10.10 「腰椎疾患の臨床——留意すべき点のいくつか」

大阪医科大学整形外科教授 小野村 敏信 先生

「足の痛み——診断の落とし穴」

大阪市立大学整形外科教授 島津 晃 先生

「整形外科の歴史と将来の展望」

大阪大学整形外科教授 小野 啓郎 先生

3) 福祉厚生部事業（村上・河合・古賀担当理事）

63. 5.15 第9回OCOAゴルフコンペ

於 瀬田ゴルフコース（西）

63. 9.11 第10回OCOAゴルフコンペ

於 花屋敷よかわコース

4) OCOA広報事業（瀬戸・大橋・長田担当理事）

大阪臨床整形外科医会会報 第8号、第9号発刊

II 昭和63年度会計報告

大阪臨床整形外科医会収支報告書

期 間 自 昭和62年11月1日
至 昭和63年10月31日

収支計算書並びに貸借対照表を作成し御報告申し上げます。

会 計 篠 原 良 洋
松 矢 浩 司

1) 大阪臨床整形外科医会

前 期 繰 越 金	1,996,390
今 期 収 益 金	604,817
<hr/>	
	2,601,207

2) 大阪臨床整形外科医会貸借対照表

資 産 の 部		負 債 の 部	
現 金	196,994	前期繰越金	1,996,390
普通預金	1,904,213	支出引当金	604,817
定期預金	500,000		
計	2,601,207	計	2,601,207

3) 大阪臨床整形外科医会 昭和63年度会費納入状況

会 員 195名 2,333,000円

4) 大阪臨床整形外科医会収支計算書

自 昭和62年11月1日
至 昭和63年10月31日

収 入		支 出	
年会費 (195名)	2,333,000	日本臨床整形外科医 会々費(195名)	1,170,000 @ 6,000×195
府医師会医会補助	100,000	JCOA学術振興基金 (29名)	87,000
会誌6号広告代(残)	35,000		@ 3,000×29
会誌7号広告代	280,000	事務費	120,000
会誌8号広告代	245,000	会誌7号	381,250
預金利息	47,487	会誌8号	273,000
		通信印刷費	147,730
		役員出張費	140,000
		役員交通費	79,000
		会議費	17,690
		単科医会々費62・63年	20,000
		利益金	604,817
計	3,040,487	計	3,040,487

監 査 報 告 書

昭和63年度大阪臨床整形外科医会歳入歳出決算につき、昭和63年11月7日、慎重監査いたしました処、適当に処理、管理されたことを認めます。

昭和63年11月7日

監 事 原 省 吾印
本 田 寅 二 郎印

大阪臨床整形外科医会殿

III 平成元年度事業計画

1. 組織と運営

- (1) 慎執行部各員の連携を密にし、能力・創意を発揮して本会の一層の発展を計る。
- (2) 会員の意見を十分に汲んで、諸委員会活動を活発に行い、全会員の期待に応える。
- (3) JCOAとその各ブロック・各都道府県との交流につとめ、整形外科医の団結に貢献する。
- (4) 日本整形外科医会その他の関係諸学会、日本医師会、大阪府医師会および各市区郡医師会、保険医協会、各単医科会、諸医療関連団体等とも交流・情報交換・協調に努力し、益々厳しい医療情勢を乗り切るためにも整形外科医の立場と意向を明瞭にしていく。

2. 学術活動

会員の研修に更に協力を強め得るように、日本整形外科学会認定医教育研修単位修得研修会の内容充実はもとより、各大学・公私病院との連携を重視して病診連携を強め、生涯教育と整形外科医療の進展に努力する。

(現在予定の研修会日程)

5月27日(土)・7月15日(土)・9月16日(土)・11月25日(土)

3. 広報活動

会報第10号・11号 発刊予定

4. 厚生・福祉活動

- (1) 会員懇親旅行 : 11月に予定
- (2) 会員懇親ゴルフコンペ : 5月と9月に予定
- (3) JCOA年金制度に協力し加入促進する。

IV 平成元年度収支予算

(収入の部)

会 費	2,400,000(12,000×200)
寄附及び広告収入	500,000
受取利息	5,000
繰越金	2,601,207
<hr/>	
合 計	5,506,207

(支出の部)

会 議 費	1,800,000
内訳：総会費	600,000
研修会費	1,200,000
分 担 金	1,235,000
内訳：日本臨床整形外科医会々費	1,200,000
JCOA学術振興基金 (@3,000×5)	15,000
近畿ブロック会費	10,000
大阪府単科医会々費	10,000
需 要 費	1,570,000
内訳：事務費	120,000
印刷費	250,000
通信費	200,000
OAOA会誌	1,000,000
交 通 費	700,000
内訳：役員出務費	300,000
予 備 費	201,207
<hr/>	
合 計	5,506,207

平成元年度 O C O A 役員

(五十音順)

名誉顧問 小川亮恵 (関西医科大学整形外科 教授)
小野啓郎 (大阪大学医学部整形外科 教授)
小野村敏信 (大阪医科大学整形外科 教授)
島津晃 (大阪市立大学医学部整形外科 教授)
田中清介 (近畿大学医学部整形外科 教授)

顧問 稲松滋
越宗正
林原明郎
原省吾

会長 伊藤成幸

副会長 大橋規男・小杉豊治

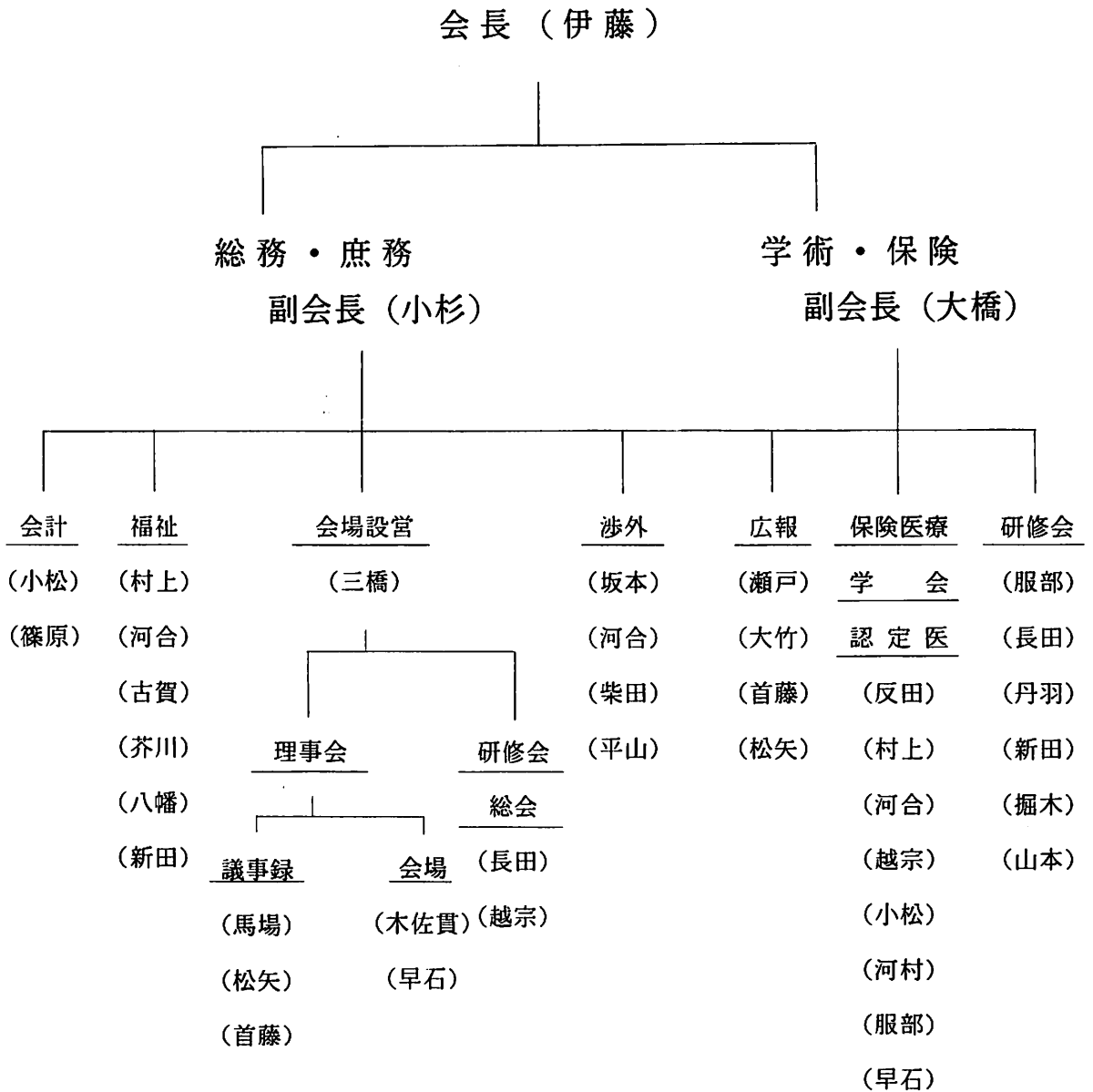
理事 芥川博紀・大竹節郎・長田明
河合秀郎・河村都容市・木佐貫一成
古賀教一郎・越宗正晃・小松堅吾
坂本徳成・柴田辰男・篠原良洋
首藤三七郎・瀬戸信夫・反田英之
新田望・丹羽権平・服部良治
馬場貞夫・早石雅宥・平山正樹
堀木篤・松矢浩司・三橋二良
村上白士・八幡雅志・山本光男

監事 本田寅二郎・吉田正和

議長 松尾澄正

副議長 安藤晃

平成元年度O C O A 役員役割分担表



(順不同)

第15回日本臨床整形外科医会研修会（大阪）

収支決算書

平成元年1月21日

1. 収入の部	2. 支出の部
<p>◎基本参加（9日宿泊料を含む）</p> <p> 会員 322名×65,000= 20,930,000</p> <p> 同伴大人 204名×60,000= 12,240,000</p> <p> 同伴小人 10名×35,000= 350,000</p> <p> （9日宿泊なし）</p> <p> 会員 38名×55,000= 2,090,000</p> <p> 同伴大人 7名×50,000= 350,000</p> <p> 同伴小人 1名×25,000= 25,000</p> <p>◎8日宿泊 428名×14,000= 5,992,000</p> <p>◎教育研修会当日参加</p> <p> 8名×10,000= 80,000</p> <p>◎オプション</p> <p> ・夕食会 283名×20,000= 5,660,000</p> <p> ・二次会（北新地）</p> <p> 107名×10,000= 1,070,000</p> <p> ・ゴルフ 120名× 8,000= 960,000</p> <p> ・テニス 15名×12,000= 180,000</p> <p> ・奈良シルク・ロード</p> <p> 113名×12,000= 1,356,000</p> <p> ・神戸一六甲 136名×14,000= 1,904,000</p> <p> ・水都大阪 25名×12,000= 300,000</p> <p> ・京都 21名× 9,000= 189,000</p> <p> ・二次会（ロイヤルホテルスカイラウンジ）</p> <p> 185名× 5,000= 925,000</p> <p> ・サヨナラ昼食会260名×5,000=1,300,000</p> <p>◎交付金・賛助金</p> <p> ・本部交付金 1,500,000</p> <p> ・大正製薬賛助金 1,000,000</p> <p> ・兵庫臨床整形外科医会 50,000</p> <p> ・杉本大阪府医師会長 30,000</p> <p>◎その他</p> <p> ・銀行利息 221,320</p> <p> ・解約料 220,900</p>	<p> ・印刷費：各種印刷物 1,582,700</p> <p> ・通信費：郵便代、切手、葉書他 764,340</p> <p> ・会議費：各県代表者会議、保険懇談会、臨時総会 521,150</p> <p> ・文化講演：会場費、講師謝礼、看板等 903,060</p> <p> ・研修会：会場費、講師謝礼、看板等 1,270,180</p> <p> ・記録費：ビデオ、録音、写真等 976,000</p> <p> ・夕食会：吉兆、ガーデングリル、天壇 5,848,960</p> <p> ・宿泊費：10月8日、9日 13,510,000</p> <p> ・懇親会費：宴会、コーラス、アトラクション他 15,959,320</p> <p> ・ゴルフ大会費：バス、賞品他 905,550</p> <p> ・テニス大会費：タクシー、賞品、昼食等 179,850</p> <p> ・奈良観光費： 1,342,953</p> <p> ・神戸一六甲観光費： 1,888,252</p> <p> ・京都観光費： 200,527</p> <p> ・水都大阪観光費： 365,862</p> <p> ・大阪半日観光費：10月10日午前 444,039</p> <p> ・団体障害保険料： 351,600</p> <p> ・二次会費：10月8日北新地 1,227,500</p> <p> ・二次会費：10月9日スカイラウンジ 905,000</p> <p> ・サヨナラ昼食会費：飲食、ピアノ謝礼等 1,975,220</p> <p> ・記念品代：テレフォンカード、感謝状等 1,732,080</p> <p> ・事務局費：本部費、事務員費他 735,030</p> <p> ・準備費：会合、下見、視察、事務員費他 3,486,230</p> <p> ・交通費：出張費、タクシー代他 332,840</p> <p> ・雑費： 253,760</p> <p> ・協力費：JCOA学術振興基金 700,000</p> <p> ・賛助金：第2回JCOA学会（神戸） 500,000</p> <p> ・余剰金： 61,217</p>
総合計 ¥58,923,220	総合計 ¥58,923,220

諸会議の報告

I 日本臨床整形外科医会（平成元年第1回）各県代表者会議

日時：平成元年3月12日（日） 10時～16時

場所：中野サンプラザ（東京） 出席者54名

会長 伊 藤 成 幸

恒例によって金井会長の御挨拶につづいて報告事項、審議事項についての各議題が、討議された。そのあと、日医の常任理事村瀬敏郎先生の「最近の医療問題」についての特別講演があった。会議内容について簡単に報告する。

報告事項

- 1) 会員状況(高瀬理事)会員数504名。物故者20名。
- 2) 第15回JCOA大阪研修会会計報告(坂本理事)。
- 3) 日整会理事会報告(高山副会長)。
A、日整会定款の改訂：理事の数を10名→16名～20名に増員、評議員160名→200名に増員、日本整形外科学会学術集会、日本整形外科学基礎医学集会、日本骨軟部腫瘍学術集会と学術集会が3つになる。理事長制導入。学会長は、理事長、副理事長になれない。正会員の中から広く選出される。選挙は、評議員によって行われる。
B、理学診療医学会設立について：整形外科の後療法が、リハ科ではほとんど扱われていない。そこで理学診療医学会を作って、後療法を学問的にやろうということで皆様に発起人になってもらいたい。
- 4) 日整会広報室報告(高瀬理事)。年に数回広報紙(タブロイド版)を発行する予定。
- 5) 日整会評議員選挙結果報告(高尾理事)。JCOA選出の評議員は、27名。
- 6) 新役員と役割分担(高瀬理事)。資料1
- 7) 日整会学術集会案内(高山副会長)。平成元年4月14日より16日まで浦安にて。
- 8) 4月15日(土)JCOA総会について(高瀬理事)。日本整形外科学会の2日目。東京浦安セラトンホテル富士の間において開く予定。
- 9) JCOA学会について(吉良学会々長)。日整会認定医の研修単位2単位がとれる。1単位は、リユーマチの研修単位にすることが出来る。
- 10) JCOA会員名簿作成の予定。
- 11) 事務局移転の件(高瀬)。5月13日より御徒町駅の近くに移転する予定(台東区

東上野1-8-3 新大石屋ビルTEL 03(839)5363)

- 12) 学校保健のモデル地区について(実施要綱作り小委員会)(高瀬理事)。これは日整会の問題であるが、JCOAが主体となる。各ブロックで、モデル地区大都市、中小都市、農村等基準を作る。
- 13) 整形災害外科学研究財団の募金委員と地区委員長について(高山副会長)。各地区で代表が中心になって協力してほしい。1口10万 1～5口まで。
- 14) JCOA福祉制度のスタートと今後の課題(高尾理事)。平成元年3月1日より発足した。(総加入者734人)
- 15) JCOA賛助会員拡大について(大成理事)。年間420万→600万位に拡大させた。
- 16) バスケット協会発行の指導者手引書について(八百板理事)。平成元年5月発行予定。定価2,000円。
- 17) その他(高山副会長)。
①東南アジア整形外科医療研修団(第9回西太平洋整形外科学会 シンガポール市)JCOA会員と家族を対象とする。旅行期間 平成元年11月21(火)～26日(日)6日間
参加費 398,000円
②リハ学会臨床認定医に関して、平成3年まで経過措置。日整会認定医は、整形以外の内科その他の方面の研修をうけるだけで形式的な簡単なテストで認定する。リユーマチ学会との話し合も行われている。
③16回JCOA研修会 9月22日(金)23日(土)24日(日)と松江市で行われる予定。

審議事項

- 1) 63年事業報告、会計報告、監査報告(高瀬、辻、日高) 資料2、3
- 2) 平成元年事業計画、予算(辻理事) 資料4、5
- 3) その他として、整形外科類似行為に対する討議等が行われた。

(各県代表者会議 資料抜粋)
資料(1)

平成元年JCOA新役員

<名誉会員>	三 木 仁
<会 長>	金 井 司 郎
<副 会 長>	伊 藤 三 郎・高 山 登

	地区名	県 名	氏 名	(役割分担)
<理 事>	北海道	北海道	松 田 嘉 博	(学術振興基金)
<理 事>	東 北	新 潟	平 田 泰 一	(JCOAだより)
<理 事>	東 北	福 島	鈴 木 豊 二	(保険)
<理 事>	関 東	栃 木	高 瀬 佳 久	(総務)
<理 事>	関 東	埼 玉	八 百 板 沙	(広報)
<理 事>	関 東	東 京	辻 公 一 郎	(経理)
<理 事>	中 部	富 山	大 成 清一郎	(組織賛助会員)
<理 事>	中 部	岐 阜	佐々木 晃	(スポーツ)
<理 事>	近 畿	滋 賀	九 谷 修	(JCOAだより)
<理 事>	近 畿	大 阪	坂 本 徳 成	(会則等検討)
<理 事>	中 国	島 根	桑 原 和 義	(JCOAだより)
<理 事>	四 国	高 地	高 尾 迅	(企画・福祉)
<理 事>	九 州	福 岡	安 部 龍 秀	(学術研修)
<理 事>	九 州	鹿 児 島	白 坂 建 一 郎	(自賠労災)
<監 事>	東 北	岩 手	山 崎 忠 保	
<監 事>	九 州	福 岡	日 高 達 郎	
<議 長>	東 北	新 潟	志 賀 正 之	
<議 長>	九 州	宮 崎	山 口 守	
<幹 事>	関 東	東 京	赤 津 博 美	

資料(2)

日本臨床整形外科医会 昭和63年事業報告

(昭和63年1月1日～昭和63年12月31日)

- 1月24日(日) 企画福祉委員会
- 2月7日(日) 昭和62年会計監査 11:00～13:00
- 2月7日(日) 評議員相談会 13:00～16:00
- 2月7日(日) 第1回常任理事会 16:00～19:00
- 2月28日(日) 第1回理事会 10:00～16:30
- 3月12日(土) 臨時理事会 18:00～20:30
- 3月13日(日) 各県代表者会議 10:00～16:00
- 4月2日(日) 総会 18:00～19:30
- 4月2日(土) 第2回常任理事会 21:00～23:00
- 4月3日(日) 企画・福祉委員会 12:30～
- 4月17日(日) 会則等検討委員会 11:00～15:00
- 4月23日(土) 文化・広報委員会
- 6月18日(土) 学術委員会
- 6月19日(日) 第1回JCOA学会 9:00～17:00
- 7月2日(土) 理事・会則合同委員会 17:00～20:45
- 8月4日(木) 第3回常任理事会 18:30～20:30
- 8月28日(日) 第2回理事会 10:00～16:00
- 10月8・9・10日 日本臨床整形外科医会研修会(大阪)
(土 日 祭日)
- 10月8日(土) 各県代表者会議 15:00～16:40
- 10月8日(土) 保険懇談会 16:50～18:30
- 10月9日(日) 臨時総会 16:30～17:00
- 10月29・30日 全国身体障害者スポーツ大会(京都)
- 11月10日(木) 第4回常任理事会 18:00～20:30
- 12月3日(土) 第3回理事会 17:00～20:45
- 12月4日(日) 全国保険審査委員会 10:00～16:00
- 2月(22号) 8月(23号)会誌発行

資料(3)

日本臨床整形外科医会収支決算書

(昭和63. 1. 1～昭和63.12.31)

借 方 (支 払)				貸 方 (収 入)			
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
1 事務所移転積立	250,000	250,000	0	1 会費収入	20,700,000	22,396,000	1,696,000
2 事務所設置費	720,000	720,000	0	2 賛助会費	6,150,000	4,216,870	△ 1,933,130
3 事務人件費	7,400,000	7,120,924	279,076	3 広 告 料	7,200,000	3,250,000	△ 3,950,000
4 通信郵送費	5,115,000	2,590,720	2,524,280	4 雑 収 入	200,000	86,845	△ 113,155
5 旅費交通費	8,768,000	4,196,140	4,571,860	5 預金利息	528,000	389,719	△ 138,281
6 会 議 費	4,350,000	1,399,947	2,950,053	6 前年度繰越	18,582,000	18,582,147	147
7 災害保険料	100,000	100,980	△ 980	7 返 戻 金	0	1,445,131	1,445,131
8 研修会補助金	1,500,000	1,500,000	0	(収 入)			
9 学会準備金	1,500,000	1,500,000	0	1 会費 (+)		未納会費の回収	
10 印 刷 費	13,480,000	6,376,400	7,103,600	2 賛助会費 (-)		会費未納62社	
11 慶 弔 費	300,000	80,000	220,000	3 広告料 (-)		会誌発行4回が2回に	
12 謝 金	400,000	200,000	200,000	5 利息 (-)		金利変化	
13 消 耗 品	100,000	313,000	△ 213,000	7 返戻金 (+)		JCOA学会立替分の返戻	
14 コピー整備費	200,000	210,000	△ 10,000	(支 出)			
15 身体障害者補助	150,000	251,000	△ 101,000	4 通信費 (-)		会誌発行4回が2回に	
16 賃 借 料	404,000	403,200	800	5 旅費交通費 (-)		各委員会の開催が少なかった	
17 臨時雇傭	200,000	82,200	117,800	6 会議費 (-)		同上	
18 雑 費	500,000	16,600	483,400	10 印刷費 (-)		会誌発行4回が2回に	
19 予 備 費	7,923,000	3,000,000	4,923,000	13 消耗品 (+)		宛名シール用紙購入	
20 職員厚生費	0	20,690	△ 20,690	15 身障者補助 (+)		身障者テニス大会補助	
21 備 品 費	0	100,000	△ 100,000	19 予備費 (-)		次年度学会準備及び研修会補助前渡し	
				21 備品費 (-)		宛名シール印刷用ワープロ購入	
計	53,360,000	30,431,801	22,928,199	計	53,360,000	50,366,712	△ 2,993,288
翌年度へ繰越		19,934,911					
合 計	53,360,000	50,366,712	2,993,288	合 計	53,360,000	50,366,712	△ 2,993,288

資料(4)

日本臨床整形外科医会 平成元年事業計画

(昭和64年1月1日～平成元年12月31日)

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1 整形外科学の研究 | 6 研修会の開催 |
| 2 医療保険制度の研究と自賠責等の適正化 | 7 日本整形外科学会への協力、連携 |
| 3 会員の福祉と親睦、厚生についての研究 | 8 学術振興基金の運営 |
| 4 医業経営の合理化の研究 | 9 JCOA会員名簿正誤表および補遺版の発行 |
| 5 広報と文化活動 | 10 JCOA学会の開催 |

平成元年事業日程

- | | | |
|----------------|--------------------|-------------|
| ・2月10日(金) | 昭和63年会計監査 | |
| ・2月19日(日) | JCOA選出の評議員相談会 | |
| ・2月26日(日) | 第1回理事会 | 10:00～16:00 |
| ・3月12日(日) | 各県代表会議 | 10:00～16:00 |
| ・4月14.15.16日 | 第62回日整学術集会 | |
| ・4月15日(土) | JCOA総会と懇親会 | 18:30～21:00 |
| ・6月18日(日) | JCOA学会 | |
| ・7月2日(日) | 保険懇談会 | 10:00～16:00 |
| ・8月27日(日) | 第2回理事会 | 10:00～16:00 |
| ・9月22.23日(金 土) | 第16回日本臨床整形外科医会研修会 | |
| ・9月24日(日) | 各県代表者会議 保険懇談会 | |
| ・12月3日(日) | 第3回理事会 | |
| *各種委員会 各3回程度 | *会誌(特集号を含む) 3～4回発行 | |

資料(5)

日本臨床整形外科医会 平成元年予算

(平成1.1.1～平成1.12.31)

(単位千円)

借方(支出)				貸方(収入)			
科目	予算額	前年度	増減	科目	予算額	前年度	増減
1 事務所移転積立	750	250	500	1 会費	21,168	20,700	468
2 事務所設置費	1,980	720	1,260	2 賛助会費	6,700	6,150	550
3 事務人件費	7,800	7,400	400	3 広告料	7,200	7,200	0
4 通信費	5,115	5,115	0	4 雑収入	200	200	0
5 旅費交通費	8,768	8,768	0	5 預金利息	271	528	△ 257
6 会議費	4,350	4,350	0	6 前年度繰越	19,934	18,582	1,352
7 総会費	200	0	200	前予算案と異なる項目			
8 研修会補助	2,000	1,500	500	(収入)			
9 学会準備費	2,000	1,500	500	5 預金利息	利率変更		
10 障害保険料	100	100	0	6 前年度繰越	63年度決算により確定		
11 印刷費	13,480	13,480	0	(支出)			
12 慶弔費	300	300	0	2 事務所設置費			
13 謝金	400	400	0	1月～3月	60,000×3=	180,000	
14 身体障害者補助	250	150	100	4月以降	200,000×9=	1,800,000	
15 消耗品費	350	100	250	20 備品費	新設		
16 コピー整備費	300	200	100	事務所移転により伴う備品購入費			
17 賃借料	404	404	0				
18 臨時雇傭費	200	200	0				
19 雑費	500	500	0				
20 備品費	600	0	600				
21 予備費	5,626	7,923	△ 2,297				
合計	55,473	53,360	2,113	合計	55,473	53,360	2,113

II 第6回日本臨床整形外科医会全国保険審査委員会

日時： 昭和63年12月4日(日)

場所： 中野サンブラザ(東京)

理事 服部良治

(I) 保険審査と労災・自賠・医療類似行為

1) 保険審査について

(A) 63・4 点数改定の問題

長期にわたり検討を重ね、ねばり強く運動を展開し提出した診療報酬改定に関する要望事項は全く受け入れられていないと言ってよい程である。

・理学療法：運動療法10点u p。(温熱療法5点u pは内科再診u pとの調整にすぎない。)

・手術科：全科手術ともばらばらだが少しu pしたものもある。整形外科ではバネ指手術のみ要望点数に近い。

・関節鏡視下手術：是正されず。

・ギプス技術料：時間外加算、材料費(プラスチックキャスト等)ともに認められず。

・レントゲン診断料：四肢CTは悪性腫瘍のみ認められた。

・その他の要望事項もすべて受け入れられていない。早速昭和63年12月2日日展会社保険等委員会に前回と同様の内容で要望書を提出した。

(B) アンケート集計結果

a)：診療報酬改定の影響について

31県で約1～15%減少

12県で約1～6%増加

b)：理学療法と処置点数に対する請求について。(運動療法または理学療法と湿布処置の同時請求について)

①同時に同一部位に運動療法または理学療法と湿布処置が請求された場合、湿布処置点数は

認める(0県) 認めない(43県)

条件付で認める(2県)

②同時に2つ以上の部位に運動療法また

は理学療法と湿布処置が行われていて請求された場合、湿布処置点数は、(例：肩関節周囲炎・変形性脊椎症の初診年月日が違って、肩に運動療法が、腰に湿布のみが行われて請求されている場合)

認める(33県) 認めない(6県)

国保・健保の違い(6県)

③同時に同一部位に行われた理学療法と創傷処置がある場合、処置点数は、(例：足関節挫傷に行われたマイクロと創傷処置)

認める(12県) 認めない(21県)

国保・健保の違い(12県)

c)：創傷処置の取扱いについて

関節捻挫の場合、湿布処置をしても創傷処置の点数で請求することを

認める(8県) 認めない(29県)

国保・健保の違い(8県)

d)：その他

①保険者よりの再審査請求に対する各県の対応：

・社保では特定の健保組合からの再審査請求が多い。審査委員会ではなるべく原審通り処理する(愛知)。

・健保組合によってはレセプトチェックを調査会社に依頼し、しつこく再々審をして来る(香川)。

②内科再診にも満たぬ処置点数について

・論外のこと、引き上げが必要だ。

③固定用伸縮包帯は四肢にも認めるべきである。

④輸血料、ギプス料に対する時間外及び新生児又は乳児加算が認められないのは不合理だ。

2) 医療類似行為

法政面では、特に柔整師問題はあちこちか

ら火の手が挙って来て、近々柔整師法が大巾に改定され、従来柔整師は都道府県知事認定資格であったものが、3年間の専門学校制となり国家試験による厚生大臣認可の資格となる。すでに中央では、施設基準とカリキュラムの作製の準備に入っていて、64年中には議院立法で法改定がなされ、65年度実施のはこびとなる筈である。カリキュラム作製にあたっては日整会からJCOA会員がメンバーとして出ており、内容についてはきびしくチェックをすまめている。

さらに保険診療の面では、柔整師は現在健保取扱い機関として療養費拂い制を取っており、その実態は予想をこえるおどろくべき数字である。例えば、社会保険に関する1年間の診療報酬点数(S61年)でみると、全点数のうち整形外科の占める点数の割合は4.4%である。これに対し柔整師等の占める割合は1.3%と言われている。参考までに 内科34.6%、外科10.9%、耳鼻科5.2%、眼科4.3%、小児科3.2%、皮膚科2.3%、精神科1.5%、神経内科0.8%、脳外科0.4%、泌尿科0.3%、歯科25.4%である。

柔整師の施術料は点数表の8割が基本であるがまるめもなく(例えばマイクロを1日に3カ所かけた場合所定点数×3で請求出来る)事実上審査機構が働いていない状態であるので、点数表の解釈も比較的有利に出来る。さらに柔整師の業務範囲の規定やその解釈も極めてあいまいであり、これを無視して施術を行っている。今後、知事及び支払側と柔整師会の間にかわされる契約書の中に、3者構成による審査の上支払うむねの内容を明記させなくてはならない。

3) 自賠責の問題について

自賠責に関するアンケート：自賠責診療に関して、今何が問題とお考えですか、今後の方向はどうあるべきですか、その対策は。

a) 自賠の考え方、健保、国保との関係

・交通事故でありながら、保険証を使う傾向がある。

・自賠診療はあくまでも自由診療が原則である。

b) 診療費、統一料金、支払遅延

・日医は自賠問題に熱心ではない。

・日医は自賠独自の統一料金による医療費体系を作らなければならない。

・支払い遅延の多くは、健保の2.5倍以上の金額での請求例に多い。

・京都では支払期限を過ぎたものには、延滞利息をつけて請求するシステムをとりかなりの成果をあげている。但し全会員が実行しているわけではない。

c) 診療内容

・昭和59年12月20日日医と損保会社との合意事項があるにもかかわらず、リサーチ会社の診療内容への干渉、治療期間の短縮、値切り、健保への切り換え強制等々目に余るものがある。

・リサーチ会社よりの問合わせは文書料を請求すべきだ。

d) 自賠責連絡協議会、審査機構

・各都道府県には自賠責連絡協議会又はその様な機能を持つ組織が設置され、自賠責に関する相談も引き受けている。

・今後、自賠責に関しても健保と同様に三者構成による審査機構も必要となるであろう。

e) 過失相殺

・最近損保側は過失相殺を理由に健保への切り換えをせまりさらに治療期間の短縮や治療費の節約に利用している。

・過失相殺については、その結果が出るのがかなり遅れることが多いので問題だ。

・強制賠償保険の場合70%未満の過失の場合は過失相殺されないが70%を超すとされる。

・こういった事故の程度や過失の割合などを知ろうと思えば、交通事故処置センターから交通事故証明をとればよい。

・損保側は任意保険への移行を極端に嫌う傾向がある。

(II) 講演：社会保険医療過去・現在・未来
厚生省大臣官房政策課
(保険局医療課併任)

企画官 高原 亮 治

今、日本は諸外国にも例をみない勢いで高令化社会に突入し、医療経済面で国民医療費は増加の一途をたどっている。そこで“いわゆる65年度の問題”とは、目前に迫った超高令化社会に対応するための施策を制度化し、それらがより効率的に機能することをねらったものといえよう。

老人死亡率の2/3は脳血管系疾患と癌であるが他の1/3に骨折の占める比率が大きいのが老人の特徴である。骨折の原因となる骨粗鬆症は整形外科の先生方の守備範囲である。特に予防の面での今後の指導性が期待される。

医療の今後の問題としては、“保険給付と一元化”、“応分の負担”がある。即ち制限診療である。例えば通院が不便であるとの理由で入院させると指導の対照となるとか、ある期間を過ぎた入院患者に対しては入院費を自費払いとする等々。

これまでの診療報酬点数の決め方は、

- ア) 分配の原則……診療科による不公平をなくする。(乙表)
- イ) 費用の原則……虫垂炎の手術を基準として換算 (S35年度導入の甲表)
- ウ) 効用の原則……薬価の決定に用いている。

それでは63年度改定にみる新しい考え方は……有効性、安全性、倫理性についての再検討を行い、特に有効性についての見なおしが行われた点である。例えば、ある病気の治療に対し、Aという治療法を行うことにより従来の治療法Bに比較して治療効果が1割上昇し、その治療に要する費用が3～4割増加するといった場合これを認めることは問題であるとする見解である。よい例がリハビリである。発病初期に良質で集中的な早期リハビリを行えば治療効果は極めて効率的である。しかるに、ある期間が過ぎ症状が固定してし

まったものには、治療効果は少い。従って、リハに対する点数を低くするか、医療としての治療を中止してもよいという考え方も成り立つ。即ち機能回復の見込のない、単に機能保持のためのリハは保険医療の治療にはなじまないといった見解もある。

今後は在宅医療が推進されるので整形外科の先生方は専門的な知識を駆使して患者のADLの改善などこの分野での一層の活躍が期待される。

(尚、本講演の全文は後日、日本臨床整形外科医会雑誌に掲載される予定)

Ⅲ 第16回 JCOA近畿ブロック会

日時：平成元年5月13日（土） 17.30～21.00
場所：ポートピアホテル（神戸）

副会長 大 橋 規 男

当日午後3時より第2回JCOA学会実行委員会が神戸国際会議場で行われ、学会運営の最終打ち合せを行った。それに引き続き、会場をポートピアホテルに変えてJCOA近畿ブロック会が、長 娟磨兵庫県代表者の司会で進められた。

(I) JCOA理事会報告（九谷理事）

平成元年度第1回JCOA理事会が平成元年2月26日、東京のホテルパシフィックで開催され、近畿ブロックより九谷修理事と坂本徳成理事が出席。主な報告事項を抜粋する。

- 1：会員状況（63.12.31現在）会員数3,205名。新入会169名。退会44名。
- 2：63年会計報告・監査報告
- 3：JCOA大阪研修会会計報告
- 5：日整会理事会報告。理学診療学会設立について、信原克哉より当日の委員選出などの手続き方法について問題点があり、日整会や勤務医から誤解を受ける恐れがあるので近畿ブロック会よりJCOA理事会にこの旨を申し入れるようにとの要請あり。第1回理学

診療学会（仮称）は平成元年9月2日（土）東京、私学会館で開催の予定。

7：柔整師養成施設基準検討委員会の件、色々の問題点について多数の意見が出た。

8：日整会評議員選挙結果報告、定員160名中、JCOA会員28名。

14：JCOA学会について、第3回JCOA学会は来年、名古屋で開催の予定。

(II) 次期開催場所と日時

第17回近畿ブロック会は滋賀県が担当し、本年11月11日（土） 大津プリンスホテルで開催する。

出席者

兵庫	長 娟磨、吉良貞伸、信原克哉、中谷正臣
京都	土屋良之、林 卓
滋賀	九谷 修、岩波日出男、山本良雄
奈良	岩井浅二、尾崎仁一、今井 智
和歌山	南 宥
大阪	長田 明、大橋規男

（敬称略、順不同）

Ⅳ 日本整形外科学会 昭和63年度定例評議員会

会長 伊 藤 成 幸

漁師町の面影を残していると思っていた、JR京葉線の浦安の舞浜へ降り立つと、駅の目の前に、陸橋を渡ってディズニーランドの広大な遊園地と、その南のかなたにヒルトン、シェラトン等のホテル群がそびえ立っている

のが見られ（学会々場群）全く私の想像とかけはなれたすばらしい所であった。

4月13日正午より東京ベイ・ヒルトンホテルにて、JCOAの評議員打合せ会に参加したのち、PM1.30から日整会の評議員会に出席

した。

会議は形の如く、議長大井教授、副議長原田評議員(JCOA広島)を選出して行われた。

私どもに関係の深いものについて報告する。

会長報告

63年度の日整会の事業経過の主なものについて報告があった。認定医制度が正式に本年より発足する。現在、認定医8,127名、スポーツ医3,071名、リウマチ医2,654名

審議事項

1. 名誉会員推薦の件：榊田喜三郎、田島達也、中野謙吾、野村 進、藤野正治、増原建二、Henry J. Mankein、の7人で、藤野先生はJCOAの会員

2. 定款一部改訂の件：(この案は、評議員会、総会にかけて文部省に答申する)

評議員の増員 130名以上160名以内→160名以上200名以内

理事の増員 9名以上12名以内→16名以上20名以内

理事長制の導入 定款中会長、副会長→理事長、副理事長

3. 日本整形外科学会役員選挙施工細則

理事長は理事の互選による。副理事長は、理事長の指名により理事会で決定。学術集会の会長は、理事長、および副理事長になることは出来ない。立候補しようとする者は選挙の前年の12月1日より12月20日までの間に、本人の立候補届、所信および現評議員5名の推薦状を選挙管理委員会に提出しなければならない。

4. 日本整形外科学会学術集会規約(案)

①日本整形外科学会学術集会、②日本整形外科学会基礎学術集会、③日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会 それぞれ対等の学会となる。

5. 次期日整会々長：三浦教授 次期通常総会の開催日、平成2年4月13日(金)14日(土)15日(日) 名古屋市

6. 次期副会長：山室教授

7. 第4回基礎医学集会：会長 山本真 平成

元年8月31日(木)9月1日(金) 京王プラザホテル(わかり易い基礎学術集會をテーマにする)

8. 23回骨・軟部腫瘍学術集会：高岸教授 福岡市

各種委員会報告

◇教育研修委員会：認定医の資格継続に関して本年3月1日より発足する。研修会の申請は、開催前3～6カ月の間に申し込むこと。演題一時間一単位、二単位以上は異なる演題が望ましい。小刻みの講演は認めない。しかし同じ系列の演題(例えばJCOA学会のようなもの)であれば、なんとか認める。

◇スポーツ委員会：資格継続の条件は、日整会誌62巻10号に会告されている。日医、体協、日整会の共通するカリキュラムの取り扱いについて、更に検討することになった。

◇リウマチ委員会：日本整形外科学会認定リウマチ医と日本リウマチ財団リウマチ登録医の一本化について、日本リウマチ財団と交渉を始めた。63年度資格取得者243名。

◇膝疾患治療成績判定基準委員会：「各技能評価判定基準」という小冊子内に集録さる。

◇医療システム検討委員会：理学診療委員会を新設した。これにより整形外科の後療法を主体とした研究を行う学会を作る。(リハ科と争うつもりはない)。

9. 理事の選挙：黒川、小野村、井方、矢部、古屋、山本真、信原、小野、高山、桜井以上10名の方が当選

10. 監事の選挙：星野、高岸、岡田 以上3名の方が当選

11. 基礎学術集会副会長の選挙：広畑教授が当選

12. 骨・軟部腫瘍学術集会会長の選挙：小野教授が当選

13. 評議員提案議題

評議員選挙の実情とその改善策について、東北地区坂本繁男先生、関東地区八百板沙先生

V 昭和63年度大阪府医師会医学会運営委員会

副会長 (医学会運営委員) 大 橋 規 男

第8回医学会運営委員会

(昭和63年11月28日(月))

1. 1月度 学術講演会開催の件
2. セミナー形式による研修会開催計画の件
2月18日(土)・19日(日)の両日、「肝・胆・膵」をテーマに開催することで、プランナーの岡村委員より説明。
3. その他
 - ・大阪府医師会医学会総会ならびに評議員会報告の件
当医学会が学会としてオーソライズされたものになるようにとの要望があった。更に眼科・耳鼻科の単科医会より、日医生涯教育制度よりも単科医会の認定医制度を優先したいとの意見があったが、杉本会長から日医の生涯教育制度にも、ぜひ協力頂きたいとの要請があった。
 - ・昭和62年度 生涯教育制度の件
担当の玉井委員より、大阪の申告率は61.1% (診療所70.4%、病院・その他43.4%)で、都道府県の順位では30番目であった旨の報告あり。

第9回医学会運営委員会

(昭和63年12月19日(月))

1. 2月度 学術講演会開催の件
2. 昭和63年度医学研究奨励費助成の件
公募要領は昨年の通り。

第10回医学会運営委員会

(平成元年1月28日(土))

1. 3月度 学術講演会開催の件
2. その他
生涯教育推進委員会での検討内容、即ち認定(専門)医制の検討経過について川崎委員より報告があり、意見交換を行った。主な意見は次の通り。
 - ・医師会の講演会だけでなく、医学会総会(発表)も学会認定(専門)医研修として認められるよう働きかける必要がある。
 - ・今後、各学会の認定(専門)医制が充実・発展すれば、日医生涯教育制度への関心がますます低くなるのではないか。

- ・現在の日医生涯教育申告書は、大学の勤務医などは書きにくい。
- ・勤務医部会第10ブロック委員会では、パイロットスタディーとして日医の申告書とは別に勤務医生涯教育申告書を提出することになっている。

第11回医学会運営委員会

(平成元年2月27日(月))

1. 4月度 学術講演会開催の件
2. 第23回日本医学会総会プログラムに関するアンケートの件
回答は坂本副会長と担当理事に一任
3. その他
昭和63年度生涯教育制度の申告及び報告について、玉井委員より「昭和63年度生涯教育申告書」「平成元年度 日医生涯教育制度実施方針」「昭和62年度 日医生涯教育制度申告書集計結果報告書」「生涯教育の現状等に関するアンケート調査集計結果」「家庭医機能の生涯教育に関する意見」について説明・報告あり。

第12回医学会運営委員会

(平成元年3月27日(月))

1. 5月度 学術講演会開催の件
2. 昭和63年度医学研究奨励費助成選考の件
研究費300万円に対し、申請が36件あったため、委員の投票により27件にしぼった。最終決定は理事会に一任。
3. その他
 - イ. 平成元年度 大阪府医師会医学会総会の日程は11月12日(日)に内定。
 - ロ. 平成元年度 セミナー形式による研修会の日程は、平成2年2月17日(土)・2月18日(日)に内定。
 - ハ. 日医健康スポーツ医学研修会は第1回が本年3月8日に行われたが、20単位を集中的に取得するように日医から要望があったので、平成2年2月24日(土)・2月25日(日)にまとめて施行する予定。

研修会報告

関節内骨折 (昭和63年11月26日 OCOA 研修会講演要旨)

京都府立医科大学整形外科教授 榎田 喜三郎



関節内骨折 intraarticular fracture とは骨折線がすべて関節内にあるものをいい、また関節骨折 articular fracture とは関節線が関節軟骨表面から関節周辺の骨におよぶものをいう。臨床的に関節軟骨損傷を来すものを大別すると圧迫(陥没)骨折 compression fracture (depression fracture) と、分離骨折 split fracture に分けられる。分離骨折の特殊な型に冠状骨折 coronal fracture があり、関節内骨片に軟部組織の付着部をもたないもので遊離骨片となるものである。これらは対向する骨端部からの圧迫力が加わって生じる。そのほか特殊なものとして骨軟骨骨折 osteochondral fracture や靭帯性裂離骨折 ligamentary avulsion fracture (骨端軟骨板を有する小児では骨端離解 epiphyseal separation となる) があり、前者は関節内骨折であり、一回の外傷によって関節軟骨の一部が薄い軟骨下骨組

織を伴って裂離したものをいい、後者は靭帯の牽引によってその付着部から骨軟骨がちぎれたものである。関節内骨折の特徴としては 1) 損傷関節軟骨の難治性、2) 関節拘縮の 2 つがあげられる。関節軟骨は無血管性で一たび損傷されると修復が困難であり、そのためこれが関節可動域制限の直接的原因となる。

関節内骨折の診断には単純 X 線撮影をはじめ断層撮影、CT 像が特に有用で、関節内骨片の大きさや位置の確認に役立つ。そのほか関節造影や関節鏡も必要になる。また裂離骨折や骨端離解などにはストレス X-P が用いられる。最近超音波で軟骨の厚さが解るようになった。

関節軟骨は硝子軟骨からなり、無血管性で成人の損傷では硝子軟骨による修復は期待できない。損傷範囲、骨片転位、年齢、後療法などによっても修復様態に大きく影響される。

このうち治療上医師の技量が発揮できるのは骨片転位の整復と後療法のあるのみである。原則として1)解剖学的整復、2)強固な内固定、3)早期関節運動の開始の3つがあげられる。ただ粉碎骨折や靭帯損傷の合併例などでは術後の外固定を余儀なくされることがある。

実験動物の関節軟骨損傷についてみると、young adult rat と adult rat の対比では14週後の Safranin-O 染色で young adult では損傷部は硝子軟骨様の細胞で修復されているが、adult では全く修復されず結合組織のままである。電顕像でみると正常関節軟骨細胞は胞体、核は丸みをもって大きく、rER や Gorgi などの細胞内小器官の発達もよいが、修復軟骨細胞では8週後が最もこれに近い形態を示す。しかし48週後になると細胞密度は減少し、glycogen や lipid の沈着がみられて変性所見を示すようになる。一方、軟骨基質も正常では collagen fibril の構築が交錯してメッシュ形成を示すが、損傷48週では細胞密度も低下し細線維化がみられる。したがって軟骨の修復は僅かな期間に限り硝子軟骨によって置換されるが、これはいわゆる正常関節軟骨ではないのでやがて経過とともに変性におちいる。

臨床的に関節面の転位には段差 step、列隙 gap、陥没 depression があり、陥没にはプラグ状と圧潰状のものがある。成熟家兎の実験で関節面に剖面をつくり、段差のあるものと無いものを比較すると、非転位例では4週後関節軟骨は線維軟骨によりほぼ修復されるが、転位例では12週後関節表面は骨と結合組織によっておおわれ修復されない。

関節軟骨損傷の修復様態をまとめると、まず非石灰化層の損傷では創は修復されない。軟骨下骨にたっする損傷では、幼若動物の場合反応性の増殖により硝子軟骨で修復される。未成熟動物では未分化間葉系細胞の硝子軟骨への分化により修復される。しかし成熟動物では軟骨による修復はみられない。関節面の転位の残存は軟骨では修復されず、変形性関節症の素地となる。変形性関節症に損傷が加

わると内軟骨性骨形成によって一時期関節表面に盛り上がりが見られるが、その後速やかに摩耗し軟骨下骨が露出するようになる。

未成熟動物では損傷後関節運動を行なった場合には軟骨で修復されるが、固定した場合には全く修復されない。このことは Salter & Bogoch らによって証明されており、また著者らも同様の実験で確認している。1979年、Salter らのウサギ膝関節軟骨損傷実験により CPM (Continuous Passive Motion) の概念が定着した。これは手術直後麻酔が覚醒する前から開始し24時間連続で1サイクル45秒間、1週間以上行うのが至適条件である。実際の可動域は70度(40-110度)である。

関節軟骨全層欠損例の硝子軟骨修復率を見ると思春期ではギブス固定部で8%、CPM群で52%であり、成人ではそれぞれ3%、44%である。CPMの効用については pumping による関節液の浸透を促し、軟骨損傷の治癒を促して早期に修復するとかんがえられている。CPMの適応は関節内骨折をはじめ外傷性関節炎の関節切開、滑膜切除術、関節拘縮の解離などである。

CPMの使用を前提として、従来あきらめられていた関節面の骨片転位残存例で疼痛や可動域制限を訴える患者の再手術による救済が可能となった。

(症例) 24歳 女 左脛骨プラト-変形治療骨折による膝関節拘縮

バイク乗車中自転車をよけようとして転倒受傷した。某病院で牽引後手術を受け、術後1ヶ月のギブス固定を受けた。初診時FTAは190度で内反膝を呈し、ROMは-25-70度と著名に制限されていた。Gerdy 結節で腸脛索を外し、脛骨結節で膝蓋骨を反転するとともに内側は驚足部を剝離して侵入した。半月板を前角部で切離し、転位した関節面の骨片を原高位まで整復し buttress plate にて強固に固定した。術後直ちにCPMを使用した。4ヶ月後FTAは183度、ROMは-5-105度に回復した。



(症例) 24歳 女 左脛骨プレート変形治癒骨折による膝関節拘縮

- a : 内反膝
- b : 断層撮影像
- c : C T 像
- d : 術後 (再健術)

新役員の抱負

抱負

理事 小 松 堅 吾

このたび本会の理事を仰付かる事になりました。

担当は、保険医療と会計であります。保険医療にとどまらず、年ごとに厳しくなる医療情勢につきましては、今更、私が高邁な理想・理念をご紹介するまでもなく、会員先生方ご自身が身にしみ感じておられる通りであります。その中で、会員の先生方と役員諸先輩のご指導のもと微力ながら、多少でもお役に立つ事ができるよう努力したいと考えております。

主たる担当は会計になると思われま。地区医師会の法人組織のように財政的には余裕に乏しく、本会の諸活動・運営は、ほとんどが会員先生方に納入頂いている会費によって成り立っております。その意味では、会員先生方に、本会の諸活動・運営に、より関心をお持ち頂けるのではなかろうかと、都合よく考えております。

ついでながら簡単な自己紹介をさせていただきます。

出身は京都府立医大、卒業後、大阪市大整形外科教室に入局、7年後市民病院に勤務、その後吹田市で開業、現在に到っております。

趣味は平凡ですが、釣りとゴルフ、釣歴は20余年、生涯磯釣りと自負しておりましたが、年齢とともに厳寒の磯が億劫となり、釣師として多少の抵抗を感じつゝ現在は船釣りに転向。ゴルフは一時期ハンデ11。その頃地区医師会の雑務と診療多忙のため7年間中断。健康のため昨年より再出発するも、年令的ハンデが大きくゴルフのハンデにも過重負担。ゴルフに較べ、練習の必要がなく、天候と潮がキメ手となる釣りについて魅力を感じるのは本質的に“釣りキチ”の血が濃いものと思われま



す。子供は男児3人、殺風景です。

本会は地区医師会と異なり、地域活動より研修事業と親睦活動がより重要と考えます。いずれ、ゴルフに限らず、家族をも含めた同好会活動も必要ではなかろうかと考えます。

医療行政、保険診療、税制、医師過剰問題、非医師医療のパワーetc. なにひとつとっても楽観的な問題はなく“前途憂鬱”が現状です。一方、医師であるが故に課される厳しい責任と、生涯教育の大義名分のもとに、整理しきれない程の医療情報の洪水に「うんざり」している昨今でもあります。

しかし、理屈っぽい世の中だからといってあまり神経質に悲観的に物事をとらえず、会員先生方とともに、明るく、前向きに、健康に生きたいと考えております。

先生方の忌憚ないご意見、ご指導をおまちしております。

OCOAとの出会い

自伝の巻頭語

理事 柴 田 辰 男

もう何年になるでしょうか、学会雑誌を流し読みしていると金沢でのJCOA研修会の案内が出ておりました。これは楽しそうな学会だと感じたこと、金沢という町が好きなこともあり、期日も迫っていたので直接事務局に電話で申込みました。これが私と臨床整形との出会いです。

金沢のホテルでOCOAの先生数名と会い初めてその存在を知った次第です。

その頃に比べると年々メンバーも増え、組織も理想的な形になり、大阪でのJCOA研修会も立派に開催されました。

大学の区別もなく、整形外科医として多く



の先生方と一緒に学び、語り、遊び、飲めること………私にぴったりの会です。

雑感

心地よい春宵一刻であった。第2会理事会の後の懇談会では、各大学の先生方が和気合々と語り合い、セクショナリズムのない、また利害関係のないパーティの素晴らしさを体験させてくれた。

今回、研修会係の一員に加えて頂いたが、昨今の研修会ブームにはいささか異常であると考えておられる先生も少なくない。研修単位を取るため東奔西走せねばならず、その物理的、時間的負担は計り知れないものがある。こんな状態が、20年30年つづくとも思われませんが、当面渦中にある私達は、逃れることのできない宿命と考えて甘んじるほかない。

しかし、見方を変えてみると研修会もまんざらではない。開業していると色々な病気をもらった患者さんがやってくる。専門でやっていた病気については何とかこなせるが、それ以外の病気は山とあるのだから始末におえない。その日暮しの素浪人の心境で事に当たっているのだが限度がある。勉強すればよいとおっしゃるかも知れないが、毎日の診察で使

理事 堀 木 篤



い果たしたあとで勉強というのは大仕事である。こんな時こそ耳学問ほど有難いものはない。

そこで役に立つのは研修会である。各分野のエキスパートの先生方の色々な話を聞くことによって、自らの勉強不足を補い、さらに患者さんにも喜んでもらい、ひいては生活の糧がふえるということにでもなれば万々才である。今後とも大いに研修会を活用いたしたいと思う次第である。

OCOA理事に就任して

理事 越 宗 正 晃

昨年JCOA総会が大阪ロイヤルホテルで開催され、林原大会々長、坂本会長以下OCOA発起人の先生方の御苦労御努力のおかげで無事修了し、まだその余韻がさめぬ内に昭和天皇崩御、リクルート問題、消費税導入と、あわただしい世相の中に、伊藤新会長をトップとして新理事会が発足その内の一人に選ばれました。大変光栄なことでありますが、話し下手、書き下手な私にとっては重責な思いが致します。役割といたしましては研修会等の会場設営を長田理事とともに、認定医問題に関しては反田理事のもとでの分担であります。この会は日常多忙な臨床医も整形外科認定医継続のための単位修得、厚生省等中央に呼び



かけることのできる可能性を持つ会と信じます。この医療情勢の厳しい中、夢を持って役割をはたしたいと思っておりますので、OCOAの会員の皆様の御指導よろしくおねがい致します。

"つぶやき"

理事 大 竹 節 郎

惰眠を貧るには、良い季節となって来ましたが、医師税制の改悪に始まり、消費税の導入、医師過剰と、今年も暗い話ばかりで「金持ち日本」と云われているが、一体、誰の所に金は、集まっているのだろう。

看護婦に云わせると、五十六才の今日迄、無病息災で過ごして来たので、患者の気持ちがわかっていないと、こき降ろすことしきりです。(本人は、よくわかっているつもり…) そのためでしょうか、昭和四十七年開業以来の年収の推移を見ると、五十三年が最高で、以後は毎年じり貧状態です。

都会の田舎的な一軒家の多い土地に開業、当時は、私の所を中心に半径五百米以内に、医療機関は九軒(その内、総合病院 1、整形 1、外科 1)が、現在は十九軒(その内、総合病院 1、整形が今年六月開院予定を含め3、外科 3)、このような状況からみても、整形外科にも医療過剰の波が、押し寄せて来た様です。



もともと医者などは、人の不幸で飯を食べているのだから、人より良い生活は望まないが、子供も居ることだし、何とか人並の生活だけは維持したいと思うこの頃です。

従って今までのような受身の「来る患者を待つ」だけの姿勢ではなく、積極的に新分野(例えば、産業医、スポーツ医、学校医等)を開拓しなければならないと密かにつぶやいている次第です。

JCOA常任理事に就任して

任期満了に伴い、平成元年の幕明けと共にJCOAの新執行部が誕生した。

JCOA近畿ブロックの推薦により、JCOA前執行部の承認を得て、凶らずも新理事に就任することとなりました。浅学非才の身ではありますが、精一杯努力する所存でございますのでどうかよろしくお願い致します。

医療界を取り巻く情勢は厳しく、平成二年度には、医療法の技術的改正がなされようとしております。それに伴い標榜科の問題、老健法、在宅医療、老人の多い長期療養者対象の「慢性病院」と急性疾患対象の「一般病院」との区別、等々いろいろの問題が改正されようとしております。

日本整形外科学界においては、本年度より理事長制が新しく導入され、大学、勤務医、開業医の三本柱の合議性により種々の問題が検討されようとしています。

JCOA常任理事

COCA理事 坂本徳成



開業医の集まりであるJCOAの役割も今後増々重要になって来るものと考えます。このような情勢を踏まえながら中央での動きをより早くCOCAに伝達し、又COCAの意見を中央へ要請するのが私の役目と考え、我々整形外科開業医の権益擁護のために粉骨砕身頑張る所存であります。どうか今後とも御指導、御鞭撻のほどよろしくお願い致します。

大阪府医師会便り

COCA会員のみなさま今日は。私が大阪府医師会の理事として執行部の末席をけがすようになり早や3年が経過した。現在、私に課せられた大きな仕事は、スポーツ医学のことであり、労災・自賠責医療に関することであります。以下、それについて、既略述べてみることにします。

私がスポーツ医学に手をそめたきっかけは、昨年春のことである。当時COCA会長・坂本先生から電話があり、日医が、スポーツ医

大阪府医師会理事

COCA理事 河合秀郎



学の講習会を始めるそうであるから、何とかこれに参加せよということであった。そこで、私が、担当理事として昨夏これに出席し、四日間の研修の後、都道府県の担当役員協議会にも顔を出すことができた。その席上、現在ある、体協・日整会・体力医学会のスポーツ認定医制度の基礎的分野を日医がはじめることにしたので、各地区で、今回行はれたスポーツ医学講習会修了者は、ケルンとなり、この芽をのばしてほしいということであった。

早速、これを、大阪府医師会の理事会にかけ『健康スポーツ医学検討委員会』が発足したのは、みなさますでに御存知のことと思います。その後、委員会は、数回開催され本年4月からは、府医の予算を400万円獲得することが出来、国会（OCOA）からは、坂本先生が、副委員長、三橋先生と林原先生が、委員として、たいへん、お世話になっている次第であります。

おかげさまで、平成元年度の行事として日医の20単位のカリキュラム通り、次のように、2回で大阪府医師会、ひいては、日本医師会の『健康スポーツ・ドクター』の認定医がとれることになりました。すなはち、10月7、8日と、来年2月24、25日のいずれも土、日曜日であります。近々、郡市区の医師会を通じて広報する予定ですが、希望者が殺到すると予想されるので、OCOA会員のみみなさまには、早い目にお申し込みいただきますようお願い申し上げます。参加費は1万円で、約250名受けつける予定であります。

次に、労災医療のことではありますが、大阪府医師会は、一昨年、会内に労災部会を設立し、日医のいう基準局は医師会を窓口一本化することになりました。すでに御存知のように、古くより、大阪には、労災病院長会という組織がありその果して来た功績は大であります。しかし、その審査委員が、労働省の官制となったのをきっかけに本質的には医師会が、今後の労災医療のお世話をするのが正しい流れであるとの見地から、私共に課せられ

た責任は重大であると考えています。今後、労災情報センターの設立と同時に支払いの保留、不支給等に対処していくつもりであります。

最後に交通事故医療に関してであります。現在、私は、日本医師会の当委員会に参画させていただいておりますが、これも積み残した多くの問題をかかえています。みなさまも、きっと日常の自賠責医療で、支払いの延長や、値切り、健保の切りかえ、リサーチ、弁護士への介入、等々、たいへんお困りのことと察します。交通事故医療は、今まで自由診療として、大阪では、ほぼ、1点20円でやってきたことは承知の事実であり、大きな既得権であります。最近の法曹界や政界の実状は、必ずしも、われわれ医療側に有利に進展せず、むしろ、厳しいところに追いこまれているわけであります。

日本医師会は、これに対し、各都道府県内に審査会を作ると同時に、基準診察費をガイドラインとして、策定し、近々、通達する予定であります。交通事故医療は、自由診療であるとは言え、決して、天井しらずのフリーではありません。私たちが会員は、あまりにも常識をはづれた、高額のレセプトは、自らいましめなければならないと存じます。このまま放っておくと、必ず1点10円になるのは目に見えているからであります。皆様の御理解を切に願います。

では 又 さようなら

松江礼賛

原外科 原 卓 司

私 代々出雲の地で生れ育ち、4人兄弟の末子の為、抛無く、現在は大阪府下で生きて居りますが、今回、JCOA研修会が松江市にて開催される事となり、大阪府の先生及び御家族の方々が御越し下さる様子に、今から身内を覗かれる様な胸騒ぎを覚えながら御案内申し上げます。

(交通)

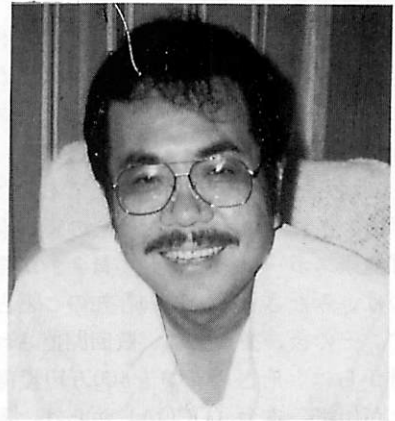
大阪からは、新幹線(伯備線経由)を御利用になっても、高速道路(中国縦貫)からも中国山地に阻まれ、5~6時間の長旅行となります。又、飛行機が、米子・出雲の両空港に数便飛んで居ります。出雲空港の方が松江に近いです(タクシーで約40分)が、あの陰湿な季候のせいで、視界不良となり、時々発着不能となる事が有ります。米子空港を御利用される方が確か々と思います(約50分)

(季候)

比較的南にあるのに、冬はシベリアからの寒気が日本海の水分を十分に吸い、中国山地にて溜まりますので、ドカ雪を降らせませす。その代わり、夏は高温多湿です。春秋の長雨も、住民にとっては優雅なものです。私も、表日本の明るさには、未だに落ち着きませせん。

(風俗 気質)

その寒さが口周囲を強張らせるのか、彼等は出雲特有の言語を使用します。曰く、「ズーズー弁」。私も未だ、「サシスセン」が発音しにくく、「イ」と「エ」の区別が咄嗟に出来かねませす。時の人、竹下 登氏が、「セカエ(世界)のジョーシェエ(情勢)は、……。」などと、一言一言発音にも気使いながら喋るのを見ると、一人で赤面し、チャンネルを変えてしまいます。これは不思議な現象で、近県はもとより、同じ島根県でも左半分の見



地方では、明確なる発音を致します。

彼等は、気質にも独特なものがあり、古き出雲族を誇りにしながら、発展性の無さが劣等感を育てたか、やゝ排他的の様です。松江大橋を挟んで、京店、白濁本町、元神町と小さな都市の割には延々と続く旧商店街を散策されれば、客の少なさに驚かれる事と思いません。奥で店員が、優雅にお茶を啜る姿も見られるでしょう。因に、先生方が立ち寄られるなら、彼等は、妙な抑揚で喋る外者(ヨソモン)が来たかと、やゝ狼狽し、媚びるが如き親切さで接しようか、羞恥で無口になろうか、戸惑う事でしょう。反面、身内意識は強く、仲間同志では特有の間と、諧謔で、延々と会話を楽みます。又、全国的には名の知られていない郷土の名酒『李白』・『豊の秋』等に酔い痴れると、日頃の陰鬱さを跳返すが如き軽快なるリズムの安来節に唄い饗するので御座居ませす。私と親交の厚い先生方に「何や、自分の事書いとるやんか。」と云われそうです。

(観光)

市内には、山陰唯一の天守閣を残す松江城を始め、城下町の雰囲気のある佇が随所に見られます。又、水の都として知られ、穴道湖の夕映、老松の堀に映す影が人々を非生産的

にするのかも知れませんが、朝夕及び四季の変化はその都度情緒を感じさせて呉れますので、旧くはラフカディオ・ハーン氏を始め一部の人達から賛辞を賜って居ります。詳しくは種々の案内カタログを御覧下さいませ。足を延ばして、出雲大社参拝でもと御考えならば、宿泊場近くに駅をもつ、一畑電鉄を御利用になれば鄙びた車両で風情ある景色の中を運んで呉れます。

(味覚)

残念ながら、9月末に来松頂く先生方には余り御薦め出来る物が御座居ません。穴道湖七珍と呼ばれる「こい・えび・あまさぎ・しじみ・しらうお・すずき・うなぎ」の内、蜆・鰻以外は冬の味覚です。「出雲そば」も季節はずれですが輸入物で味わえます。殻のままの蕎麦を粉にし水だけで延し手打つのですから大変な労力の割には、出来たものはバサバサで掴みにくいので、割子と呼ばれる小器に盛りカツオ節、ネギ等ノ薬味と共に甘辛いタレを少量かけ口にかき込みます。コシのある麺をワサビのきいた汁につけ上品に御綴りなる蕎麦通の先生方に、どの様な評価をうるか心配でたまりません。最近では、外来者用につなぎ（小麦粉・山芋等）を入れたものも多く見られます。でも出来れば、松江そば組合加盟店で稀有な味を御試し下さい。又、年中あるカマボコも独特のもので、「野焼き」「つと」の二種ですが前者は竹輪ではありません。地元で「アゴ」と呼ぶ飛魚で作られ、ピンからキリ迄御座います。ピンはJR松江駅隣のデパート「ピノ」地下に店を出している長岡のもので、夏でも氷詰めで宅配してくれます。地元の人達は高価ゆえ余り食しません。どこでもそうですが、駅や空港で売っている名産物は御薦め出来ません。案外、地元の人が行く、スーパーに地方色のある美味が安価に見つかります。お茶の好きな先生は、七代藩主松平不昧公ゆかりの抹茶と共に和菓子「若草」「山川」「八雲小倉」を味わって下さい。これは御満足頂ける事と存じます。

(名産)

雪国の城下町の類に漏れず、漆器、陶器を作って居ります。漆器は八雲塗りと称し、加賀百万石の豪勢な輪島塗と比べ、出雲十八万石（地元の人達は実質三十万石と云います）程度のものでしょう。花鳥の派手さを上塗で隠し、使う程に絵模様が浮き出すのを長い間、待ち続けて居ります。焼物も80余りの窯元で産し、土臭く肉厚でいびつな器に、彼等は風流を見つけ、一般家庭でも容易に抹茶を嗜みのんびりとした時を過します。又、来町石を伝統的板法で削った出雲石灯籠も庭好きの先生なら御存知かも知れません。他の特産品に於ても大体風情的に発達した物が多く、最近私も、この余裕こそ文化と呼ぶに相応しく想い、大阪での日常に不本意なものを感じて居ますが、周囲の者達には只の横着者としてしか見られない様です。

以上、思い附くまゝ筆を取りました。三十年前の出雲風土記的な所も有るかも知れませんが、郷土を愛するがゆえに今でも変らない事を願って居ります。

厚生部だより

昭和63年度OAOA秋季ゴルフコンペ（第9回）

S.63.9.11 花屋敷よかわコース（小雨曇）

スタートは小雨と霧で視界が悪く心配されましたが、次第に雨も上がり、昼にはすっかり秋らしくなりました。

今回は10月9日に行われるJCOAのゴルフコンペの予定として変則ダブルペリア方式を採用致しました。コンピューターにスコアを打込みますとあっという間に成績表が出来上がり便利なものだと感心しました。

先日シングルプレーヤーになられた藤家先生が好調で優賞され準優勝には林原先生が入り、競技終了後のパーティーも盛り上がり、10月の大会成功の御協力をお願いして会を終了致しました。

		NET
優賞	藤家 匡則	71.4
準優賞	林原 明郎	73.2
3位	新田 望	73.6
4位	八幡 雅志	73.8
5位	玉井 丈博	74.0



63年 秋季ゴルフコンペ成績表

(63.9.11花屋敷よかわコース)

N A M E	O U T	I N	G R O S S	H. D. C. P	N E T	R E S U L T
藤 家 匡 則	40	41	81	9.6	71.4	優 勝
林 原 明 郎	42	42	84	10.8	73.2	準優勝
新 田 望	50	50	100	26.4	73.6	3 位
八 幡 雅 志	37	38	75	1.2	73.8	4 位
玉 井 丈 博	43	49	92	18.0	74.0	5 位
越 宗 正 晃	49	52	101	26.4	74.6	6 位
杉 立 山 治	42	46	88	13.2	74.8	7 位
松 矢 浩 司	48	57	105	30.0	75.0	8 位
三 橋 二 良	47	44	91	15.6	75.4	9 位
大 橋 規 男	53	46	99	22.8	76.2	10 位
首 藤 三七郎	46	47	93	16.8	76.2	11 位
堤 勁	55	52	107	30.0	77.0	12 位
池 浦 泉	52	54	106	28.8	77.2	13 位
丸 茂 仁	54	47	101	21.6	79.4	14 位
平 山 正 樹	54	51	105	24.0	81.0	15 位
久 保 俊 雄	58	53	111	30.0	81.0	16 位
松 尾 澄 正	48	50	98	16.8	81.2	17 位
河 村 都容市	42	44	86	4.8	81.2	18 位
坂 本 徳 成	59	57	116	33.6	82.4	19 位
篠 原 良 洋	48	59	107	24.0	83.0	20 位
島 田 永 和	52	56	108	24.0	84.0	21 位
丹 羽 灌 平	68	51	119	33.6	85.4	22 位
福 井 宏 有	69	75	144	36.0	108.0	23 位

ベストグロス	八幡 雅志	
ドラコン	八幡 雅志	玉井 丈博
ニヤピン	池浦 泉	島田 永和

平成元年 OCOA春季ゴルフコンペ（通算10回）

OCOA春季ゴルフコンペは、5月14日（日）会員22名参加のもと北六甲ゴルフ倶楽部西コースで行われた。

前日迄雨で当日の天候が心配されたが幸いにして好天に恵まれ、後半は軽く汗ばむ程であった。

上位の成績は次の通り

			ネット
優勝	孫	瑠権	71
準優勝	玉井	丈博	73
3位	丹波	灌平	75
4位	河村	都容市	78
5位	杉立	山治	78

プレー後は、村上先生の進行で、なごやかな雰囲気の中にパーティーと表彰式が行われ、歓談のあと散会した。

次回は第10会の優勝者孫先生とB.B.の瀬戸先生が幹事で平成元年9月10日（日）六甲ゴルフ倶楽部で行われる予定。



平成元年春季OCHOAゴルフコンペ成績表

(平成元年 5月14日 北六甲GC西コース)

N A M E	O U T	I N	TOTAL	H.D.C.P	N E T	R A N K
孫 瑠 権	43	40	83	12	71	優 勝
玉 井 丈 博	46	42	88	15	73	準優勝
丹 波 濯 平	47	47	94	19	75	3 位
河 村 都 容 市	46	41	87	9	78	4 位
杉 立 山 治	49	49	98	20	78	5 位
藤 家 匡 則	42	43	85	5	80	6 位
丸 茂 仁	48	51	99	18	81	7 位
茶 川 博 紀	47	45	92	10	82	8 位
小 林 誠	49	47	96	13	83	9 位
林 原 明 郎	52	44	96	12	84	10 位
平 山 正 樹	54	47	101	17	84	11 位
首 藤 三七郎	46	55	101	17	84	12 位
島 田 永 和	54	53	107	23	84	13 位
八 幡 雅 志	48	46	94	7	87	14 位
村 上 白 士	52	50	102	14	88	15 位
米 谷 健 裕	57	50	107	18	89	16 位
坂 本 徳 成	61	56	117	25	92	17 位
宇 野 衛 男	57	57	114	19	95	18 位
古 賀 教 一 郎	58	63	121	26	95	19 位
山 本 光 男	66	66	132	36	96	20 位
瀬 戸 信 夫	72	69	141	36	105	B・B
福 井 宏 有	72	71	143	36	107	敢闘賞

ベストグロス賞83

孫 瑠 権

ドラコン賞

藤 家 匡 則

八 幡 雅 志

ニアピン賞

藤 家 匡 則

孫 瑠 権

茶 川 博 紀

丹 波 濯 平

大波賞

首 藤 三七郎

小波賞

宇 野 健 男

次回ハンディ 孫 9 玉井 13 丹波 18

敬称略

日本理学診療医学会入会のおすすめ

平成元年4月15日 日本理学診療医学会発足の会が東京ベイヒルトンインターナショナルホテルで開催され、同医学会が正式に発足いたしました。OCA理事坂本徳成先生が同医学会幹事として第1回日本理学診療医学会幹事及び日本理学診療医学会発足集会に出席されましたので当日の報告をしていただきました。同医学会より発行されている「設立にいたる経過説明」「設立趣意書」「会則」を転載致します。OCA会員の皆様の御入会御参加をおすすめ致します。

入会申込用紙は同医学会事務局(東京都板橋区大谷口上町30-1 日本大学整形外科教室内 TEL03-972-8111(内線24937)に請求して下さい。なおOCA事務局にも若干の用意を致しております。

第1回日本理学診療医学会幹事会報告

開催日時 1989年4月14日 12:00~13:00

場所 東京ベイヒルトンインターナショナルホテル2階「星の間」

出席者	石井 清一	岩谷 力	大井 淑雄	小野 啓郎
	小野村敏信	片岡 治	黒川 高秀	坂本 徳成
	酒匂 崇	沢村 誠志	高瀬 佳久	高松 鶴吉
	高山 螢	中村 隆一	服部 彰	原 武郎
	原田 雅弘	松田 喜博	間宮 典久	山本 博司
	渡部 英夫			

- 議題
- 挨拶 松井 教授
 - 経過報告 大井 教授
高山 先生
 - 検討事項 ① 会則
② 会費
③ 会長、副会長、監事、顧問、幹事
④ 事務局
⑤ 発足集会、会次第
⑥ 学会の方針
 - 今後の学会活動予定
1989-9-2 第1回学術集会 日本私学会館
会長 鳥山 貞宜教授
 - その他

本学会の必要性和日本リハビリテーション医学会との関係について数々の疑問が出されたが、整形外科として不可欠な分野である点について意見の一致をみた。時間の制約があったため、議題3は検討できず次の2点についてのみ決定した。

①1990年・第2会学術集会の会長は東北大・桜井教授にお願いします。

②当分の間、本学会の事務局は日本大学医学部整形外科学教室におく。

日本理学診療医学会発足集会報告

日時 1989年4月15日 18:00~19:00

場所 東京ベイヒルトンインターナショナルホテル
2階「銀の間」

出席者 約400名
会場は、ほぼ満席となり、着席できない方も多数見受けられた。

式次第	1	開会	岩谷
	2	議長選出	白井教授
	3	経過説明	大井教授 高山先生
	4	討議	
	5	会長挨拶	鳥山教授
	6	閉会	

議長に日本医大・白井康正教授を選任し、3・4の議事を行った。

討議の際、本学会が整形外科に限らず、他科で理学療法に関係する医師にも開かれたものとしておくべきとの意見が出された。これは当初から考慮していた点であり、温泉気候物理医学会、日本リハビリテーション医学会員にも参加のよびかけを行っており、今後ともオープンな学会を目指していることを報告した。信原先生から集会の手順につき貴重なご意見を頂き参加者の賛同を得、本学会が発足した。

設立にいたる経過説明

整形外科とリハビリテーションとは古くから密接な関係にありました。時代の流れと共に、互いの独立性が明らかになり、それと共にいくつかの問題点が顕在化してきました。その問題はいくつかありますが、ここ数年ことに論議をよんでいる問題は、

- ① 理学診療科という標榜科名をめぐる問題
- ② 理学療法の保険点数の格差
- ③ 育成医療、更生医療など身障者福祉医療をめぐる問題
- ④ リハビリテーション学会専門医認定医制度発足を機に、長年療育などの医療に関してきた整形外科医がリハビリテーションの認定医として認められなかったことに端を発するリハビリテーションとは何かという問題

などがあります。これらは、リハビリテーション学会員である整形外科医の個人的努力はもとより、日整会も解決のため努力して参りましたが、会員の満足のいくような結果は得られていません。そこで、理学診療そのものを見直す気運が高まり、昭和63年12月9日の日整会理事会で理学診療委員会が常置委員会として設置されました。

整形外科医にとって、理学診療が重要な分野であるにもかかわらず近年軽視されてきました。理学診療科を担当する整形外科医は多くおりますが、理学診療科を受診する患者は整形外科疾患にとどまらず、患者のニーズは多用化しております。また理学診療科を標榜している開業医も多く、理学診療が日常診療に占める割合は40～50%に及んでおります。しかし、その学問的基盤は軟弱で、教育も十分に行われているとは申せません。これらは整形外科医が真剣に考え解決すべき問題であります。

そこで我々自身の学問的足場を固めるため理学診療医学会の設立が考えられました。もとより理学診療は整形外科固有のものではありません。理学診療を発展させるためには、癌治療学会のように学際的で理学診療の関係者が広く参加した学会が望ましいものと考えられます。リハビリテーション学会との関係が問題となりますが、当学会は学問を目的としており、リハビリテーション学会に対立する意図で設立されたものではありません。

本学会設立に至った経過をご了解下さって、学会に参加して頂けますようお願い申し上げます。

設立趣意書

「理学診療科」が標榜科として厚生省の認可を得ていることは衆知のことで、以前より多くの医療施設で標榜されております。医学の進歩、社会の変遷と共に一方では専門領域が細分化、再編成され、他方では総合診療の再認識が叫ばれ、そのような中で各方面から従来の理学診療科を見直して新しい時代にあったものとしようとする動きが高まって参りました。

多くの医学会において認定医や専門医制度が整備されるのに呼応して、厚生省では標榜科名と学会活動に関連した専門医、認定医資格を結び付ける方向を検討し始めました。理学診療科もその検討の対象となっておりますが、一学会一認定医（専門医）を原則とした方針での審議が行われていると言われております。従って将来の「理学診療科」について真剣に検討すべき時期に至っていると考えられます。

医学的立場から見ますと、運動器官の障害に対する治療は手術のみによるものではなく、器械器具を用いた矯正術、温熱療法、運動療法などの理学療法や薬物療法が適切に組み合わせられて最大の効果を発揮するものであります。このように理学療法が日常診療に占める割合は非常に大きいものであります。近年この分野への関心が薄れ、なおざりにされて参りました。一方これらの分野に関係するパラメディカルスタッフはその知識、技術水準をあげ医師の知識レベルにかた肩を並べようとしております。

このような諸般の情勢を考慮するとき初心にもどって、学問体系として重要な理学診療に改めて光明を与え、この方面の学術研究と臨床研修を充実させるべく、「日本理学診療医学会」を設立致したいと考えます。本学会は整形外科にとどまらず、理学療法に関係する全ての分野の研究者、臨床医に参加をよびかけ、物理学的原理を応用した診断学と治療学を研究し、またそれに関連する社会医学問題も包括して自由闊達な研究と情報交換の場となるように企画しております。

上記のごとき趣旨をご理解いただき多くの方々に会員として本学会にご参加下さいますようお願い申し上げます。

1989年4月15日

日本理学診療医学会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は日本理学診療医学会（The Japanese Society for Physical Medicine）と称する。
- 第2条 本会は事務局を東京都内に置く。
- 第3条 本会は理学診療に関する研究発表、連絡、提携、及び研究の促進を図り、理学診療の進歩普及に貢献し、もって学術文化の発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は前条の目的を達するために次の事業を行う。
- 1) 研究発表会及び講演会の開催。
 - 2) 機関誌、論文、図書等の刊行。
 - 3) 内外の学術団体との連絡及び提携。
 - 4) その他前条の目的を達成するのに必要な事業。

第2章 会 員

- 第5条 本会の会員は、1) 正会員、2) 賛助会員、3) 名誉会員よりなる。
- 第6条 正会員は、日本国の医師免許を有する医師で、本会の目的に賛同し、会費を納入する者とする。
- 第7条 賛助会員は、本会の目的に賛同し、これを援助する個人または団体とする。
- 第8条 名誉会員は幹事会で推薦され、総会で承認された者とする。名誉会員は会費を要しない。
- 第9条 会費滞納3年に及ぶものは退会と認める。既納会費は還付しない。

第3章 役 員

- 第10条 本会に会長1名、副会長1名、監事、幹事、顧問をそれぞれ若干名おく。
- 第11条 会長、副会長は幹事の推薦により選出する。会長の任期は学術集会終了の翌日より、次期学術集会終了の日までとする。
- 第12条
- 1) 会長は本会の業務を総轄し本会を代表する。
 - 2) 副会長は次年度会長予定者とし、会長を補佐する。会長に事故あるとき、または欠けたときにはその業務を代行する。
 - 3) 監事は本会の会計及び会務の監査を行う。
 - 4) 顧問は幹事会で推薦され総会で承認された者で会の運営に助言を与えるものとする。

第4章 学術集会及び会議

- 第13条 学術集会は年1回開催する。
- 第14条 総会、幹事会はそれぞれ年1回開催する。但し、会長が必要とみとる場合、または幹事の3分の1以上の請求があった場合、会長は幹事会を招集することができる。

第5章 付 則

- 第15条 学術集会の演者及び機関誌に論文を投稿するものは原則として会員資格を必要とする。

非会員の発表については別に定める。

第16条 本会の会計年度は、1月1日に始まり、12月31日に終わる。

第17条 正会員及び賛助会員の会費は別に定める。

第18条 本会則の改正は総会において、その出席会員の半数以上の同意を要するものとする。

第19条 本会則は1989年4月16日より発効する。

《会費に関する申し合わせ》

正会員の会費は年5,000円とする。賛助会員の会費は年50,000円とする。

1989年4月15日

第1回理事会（平成元年1月21日）

1. 伊藤会長挨拶（要約）

平成元年にスタートいたしました新執行部とOCOAの益々の発展のためご協力くださいますよう宜しくお願いいたします。

2. 坂本前会長挨拶（要約）

三橋、吉田両副会長との5年間、任期満了までご支援くださりまして有難うございました。この度、日本臨床整形外科医会の理事に就任いたしましたので、中央とのパイプ役を務め、OCOAのために精一杯努力していきたいと考えますのでご指導の程よろしくお願い申し上げます。

<議題>

(1) JCOA健康保険審査委員会の報告（服部）

- a. 診療報酬について、昨年4月の点数改正では、我々の要望は、ほとんど認められなかった。厚生省側は、整形外科は改正により、良くなったのではないかという結果をもっているようであるが、実質的にデータを出すと、マイナスであったところが殆どである。診療報酬の改正で31県が1～15%減少、12県で約1～6%の増加であった。（整形外科に関して）

- b. 年間の全保険点数の中で整形外科の占める割合は、4.4%であるが、柔整師は1.3%もあり、整形外科の約1/3を占めるに至っている。

柔整師は国家試験になる。現在カリキュラム作成中。

- c. 自賠責に関しては自由診療であるから、健保診療をベースにしているのはおかしい。しかし、ある程度の額を決めておいたほうが支払遅延などもなくていいのではないかという意見もある。又、自由診療なので額を決めなくてもよいという意見もあった。

- d. リハビリテーションは、早期リハが中心で、症状の固定したものは、どんどん切っていくと厚生省はしている。

**(2) 府医師会医学会運営委員会の報告（大橋）
第8回運営委員会（S. 63年11月28日）
の件について——プリントで報告。**

(3) 学術研修会・今後の予定（服部）

演者と演題について

5月27日 ターミナルホテル

大阪医大整形外科助教授 阿部宗昭先生
「肘関節周辺骨折の診断と治療の問題点」
大阪医大形成外科教授 田嶋定夫先生
仮題「形成外科の基礎と整形外科の臨床応用」

7月以降は追って決める。

- (4) JCOA大阪研修会の会計報告（小杉）
プリントあり。本日のOCOA理事会で承認されたので、OCOA雑誌に載せる。
(5) 第2会JCOA学会の準備委員会について（伊藤）

1989年6月18日（日）、神戸国際会議場、吉良会長、近畿ブロックが協賛。

テーマ 午前：慢性関節リウマチ、午後：
椎間板ヘルニア。日整会研修単位は2単位
となる。会費1万円、昼食付き。

(6) OCOA会報9号の報告と10号の企画（瀬戸）

10号締め切り4月20日、発行5月。投稿の分担を決める。

(7) OCOAゴルフコンペについて（丹羽）
春：5月14日北六甲C,C 秋：9月10日

(8) OCOA旅行について（河合）
11月18日・19日 場所未定

(9) 日整会と柔整師会との関係について（伊藤、河合）

兵庫県では柔整師相談医を作った。医師会と柔整師会は友好団体である。年1回会合をもち、保険担当医が出席している。日整会としては柔整師との間をうまくやって行きたいという意向である。OCOAとしての対応について意見を求め調整して行く。

(10) 理事会の電話連絡網について（三橋）

プリント有り。FAX番号も記載して後日お送りさせて頂く。

その他

OCOAの名簿を作成する。健康スポーツドクターについて、日整会では日医健康スポーツドクターの資格を習得しておいたほうがよいという意向である。JCOA福祉年金共済は、590余名の入会にて発足した。

第2回理事会（平成元年4月22日）

<議題>

(1) 大阪府医師会医学会運営委員会の報告 （大橋）

第10回、第11回及び第12回医学会運営委員会に出席された大橋先生より報告あり。

日医健康スポーツ医学研修会は、第1回が本年3月8日に行われたが、20単位を集中的に取得するように日医から要望があったので、本年10月7日（土）・8日（日）、平成2年2月24日（土）・25日（日）に、まとめて施行する予定。

受講者は限定300人で代議員の数に比例して地区医師会に一任する。

大阪府医師会長の認定証が取得でき、日本医師会にスライドする。

(2) 研修会についての報告（服部）

第1回研修会

日時：5月27日 15:00～18:00

場所：レストランパレス・ラ・クール

演題：(1)肘関節周辺骨折の診断と治療の問題点

講師 大阪医大整形外科
阿部 宗昭 助教授

(2)形成外科の基礎と応用

講師 大阪医大形成外科
田島 定夫 教授

単位：日整会認定2単位

第2回研修会

日時：7月15日 15:00～18:00

場所：日航ホテル

演題：(1)変形性股関節症に対するBipolar人工骨頭置換術

講師 大阪市大整形外科
浅田 苑爾 講師

(2)膝関節外傷

講師 大阪大学整形外科
史野 根生 講師

単位：日整会認定2単位

第3回研修会は9月16日ターミナルホテル

第4回研修会は11月25日 太閤園を予定している。

(3) 研修会その他の会場設営と事務的な処理負担について（三橋）

本年度の研修会は、議題2の通り決定しており、エーザイ、吉富製薬、藤沢製薬及び大正製薬が協力していただけることが決まっている。

来年度も本年と大体同じ時期に会場は長田、講師は服部、認定手続きは会長が担当する。

本年度より、認定単位修得のために参加者は増加するとみられる。会場費等も増えるので、研修会の会費は、本年度は2,000円となっているが、来年度は、総会で値上げを決定してもよいのではないかと、という提案があった。

(4) 会費の徴収について（小松）

会費の徴収できていない人が5人あったが、解決している。

(5) 春季ゴルフコンペの件について（古賀）

5月14日、北六甲ゴルフクラブで22名のエントリーができています。

(6) OCOA会誌10号について（瀬戸）

原稿を早くいただきたい。
巻頭言は伊藤会長に書いていただく。

(7) OCOA会員旅行について（河合）

グリーン車を使用せずに、岡山・瀬戸大橋方面に行く予定。

(8) JCOA各県代表者会議について

3月12日（日）に東京の中野サンプラザに於て、行われた。

現在、JCOA会員は、3,504名である。

5月6日にJCOAの事務所が移転する。

東京都台東区東上野1-8-3

新大石屋ビル 4F TEL03-839-5363

スタッフは、事務局長と事務職員2名とする。

(9) 日整会評議員会について

4月13日、東京ベイヒルトン・インターナショナルホテルに於て開かれた評議員会で、日整会の懸案であった理事長制度が導入定次の一部改訂等が行われる運びとなった。

（記：松矢）

会 員 名 簿 補 追

・会員名簿追加

〒	氏 名	医療機関名称	医療機関所在地	電話番号	自 宅 住 所	電話番号
593	よしかわたかひろ 吉川隆宥	吉川医院	堺市草部1413	0722 73-3210	〒590 堺市大浜北町2-1-7-1001	0722 22-1190
533	はまだひろあき 濱田博朗	濱田整形外科	大阪市東淀川区瑞光 1-12-12 シセイビル1F	06 321-7103	〒562 箕面市粟生新家5-16-7	0727 29-8211
553	たにまさと 谷 定 泰	松本病院	大阪市福島区海老江 2-1-36	06 458-7171	〒658 神戸市東灘区御影中町 1-7-19	〒078 854-0148
596	やくらひさよし 矢倉久義	矢倉整形外科 クリニック	岸和田市小松里町105-1	0724 44-1120	左に同じ	0724 43-2016
546	もりまわやすじ 森沢康二	森沢クリニック	大阪市東住吉区湯里 1-14-13	06 704-5001	左に同じ	06 704-5001
543	こばやしまさゆき 小林正之	小林整形外科 診療所	大阪市天王寺区大道 4-2-21	06 779-5586	左に同じ	06 779-5586
542	たかはしまさゆき 高橋昌幸	高橋外科医院	大阪市中央区高津3-14-4	06 632-5641	〒545 大阪市阿部野区北畠 2-11-69	06 653-4450
578	うまだやすひろ 上田 晏 弘	上田整形外科	東大阪市中野190-6	0729 61-6612	〒631 奈良県学園南2-21-14	0742 43-0238
565	なかのほじゆき 中 基 肇	中基外科医院	豊中市新千里西町3-3-3	06 872-0320	左に同じ	06 872-0320
543	とだみのる 戸 田 稔	戸田整形外科	大阪市天王寺区東高津町 12-16	06 765-0301	〒543 大阪市天王寺区四天王寺 2-1-26	06 772-7784
532	かながわまさひろ 金川雅洋	金川医院	大阪市淀川区三津屋北 1-33-15	06 306-1969	〒662 西宮市南越木岩町1-41	0798 74-0259
559	みきしんいちろう 三木春一郎	三木整形外科 ・内科	大阪市住之江区粉浜 3-14-18	06 671-0608	左に同じ	06 671-0608
560	くりもとかずな 栗本一孝	栗本整形外科	豊中市夕日丘1-1-5	06 846-2567	〒564 吹田市円山町16-12	06 380-2188

●名簿の訂正

退会：円井一示、宮本琢磨

●注：住所、電話番号変更はOCA事務局までお知らせ下さい。

お 知 ら せ

(Ⅰ)第2回学術研修会

日時：平成元年7月15日(土)15:00~18:00

場所：日航ホテル

演題(1)変形性股関節症に対する

Bipolar 人工骨頭置換術 (N-C-III-O)

講師：大阪市大整形外科 浅田崇爾講師

演題(2)膝関節外傷 (N-D-IX-6)

講師：大阪市大整形外科 史野根生講師

(Ⅱ)第3回学術研修会

日時：平成元年9月16日(土)15:00~

場所：ターミナルホテル

演題(1)骨腫傷の診断

講師：奈良医大整形外科 三井宜夫 講師

演題(2)肩のスポーツ外傷

講師：奈良医大整形外科 尾崎二郎 講師

(Ⅲ)第13回OCOA総会及び研修会

日時：平成元年11月25日(土)

場所：太閤園

演題：未定

講師：関西医大整形外科 小川 亮恵教授

(Ⅳ)第11回ゴルフコンペ(秋季)

平成元年9月10日(日)

北六甲カントリー倶楽部 6組

(Ⅴ)第5回OCOA親睦旅行

平成元年11月18日(土)~19日(日)

瀬戸大橋、倉敷大原美術館他

原稿募集

次号(11号)平成元年11月発行予定です。日頃臨床経験、診療上の工夫、学会研修会印象記・OCAOに対する意見要望・保険診療・医業経営・医政に関する御意見・随想・趣味等々いづれでも結構です、奮って御投稿下さい。(平成元年10月20日ノ切)

(送り先:OCAO事務局)

編集後記

日整会認定医の研修制度もいよいよ本格発足し、OCAO研修会、JCOA学会も満席の盛会で、懇親会も賑々しく行われております。OCAO伊藤新執行部も発足して半年、順調なすべり出しをみせております。坂本前会長がJCOA理事や日本理学診療医学会幹事就任、河合理事の府医理事等、外に向ってもOCAOの厚みが増し次第に大きく成長しつつあります。

新しく理事になられた先生方に抱負等をお願いしました。会員の原先生の「松江礼賛」は、本年度JCOA松江研修会に因んで、松江の旅情を誘うに相応しい記事を御投稿いただき有難うございました。OCAOの研修会懇親会でいつも楽しい司会役の河合理事は前述の様に大阪府医師会理事としての活躍も二期目に入り、「府医だより」で整形外科関連のニュースと解説をしていただきました。今後も御期待下さい。

OCAOから社保には反田理事、原顧問、国保には村上理事が審査委員として出ておられますので、減点等審査に関して疑問の点があればOCAO事務局までお寄せ下さい。Q & Aの形で、本誌に掲載する事になっております(匿名御希望でも結構です)。その他も含めて皆様の御投稿をお待ちしています。

(N S 記)

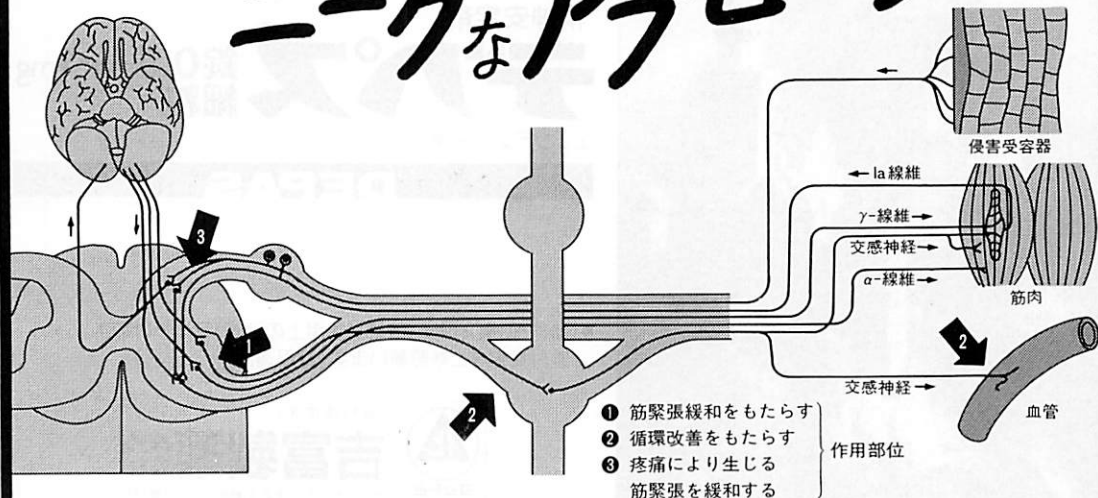
大阪臨床整形外科医会会報 第 10 号

平成元年 6 月 20 日 発行

発行所 大阪臨床整形外科医会事務局
〒535 大阪市旭区高殿6-3-27
伊藤整形外科・外科診療所内
TEL (06)953-0071
FAX (06)956-5558

編集者 伊藤 成 幸・大橋 規 男
大竹 節 郎・松 矢 浩 司
首藤 三七郎・瀬戸 信 夫

筋緊張に ユニークなアプローチ



骨格筋と血管平滑筋—双方の緊張を緩和する



筋緊張・循環改善剤
指要 **ミオナール**® 錠 50mg・顆粒 10%
〈塩酸エベリゾン製剤〉

効能・効果

- 下記疾患による筋緊張状態の改善
 頸肩腕症候群、肩関節周囲炎、腰痛症
- 下記疾患による痙性麻痺
 脳血管障害、痙性脊髄麻痺、頸部脊椎症、術後後遺症(脳・脊髄腫瘍を含む)、外傷後遺症(脊髄損傷、頭部外傷)、筋萎縮性側索硬化症、脳性小児麻痺、脊髄小脳変性症、脊髄血管障害、スモン(SMON)、その他の脳脊髄疾患

用法・用量

通常成人には1日量として塩酸エベリゾン150mgを3回に分けて食後に経口投与する。
 なお、年齢、症状により適宜増減する。

主な薬理作用

筋緊張を緩和する。
 血管拡張作用を示す。
 疼痛反射をおさえる。

使用上の注意 (抜粋)

- (1) 一般的注意
 本剤投与中に脱力感、ふらつき、眠気等が発現することがあるので、その場合には減量又は休薬すること。
 なお、本剤投与中の患者には自動車の運転など危険を伴う機械の操作には従事させないように注意すること。
- (2) 次の患者には慎重に投与すること。
 肝障害のある患者

*副作用、その他については添付文書をご参照下さい。

資料請求先は弊社医薬部まで。



エーザイ
 東京都文京区小石川4

H-B1 9002

●心身症(高血圧症、胃・十二指腸潰瘍)の不安・緊張・抑うつ・睡眠障害に

●腰痛症、頸椎症、筋収縮性頭痛の不安・緊張・抑うつおよび筋緊張に



強力な抗不安作用と
優れた鎮静・催眠作用、筋緊張緩解作用、抗うつ作用

精神安定剤
デパス[®] 錠0.5mg・1mg
細粒

エチゾラム (指) (要指)

DEPAS

●〈効能・効果〉〈用法・用量〉〈使用上の注意〉等については
添付文書をご参照願います。〈健保適用〉



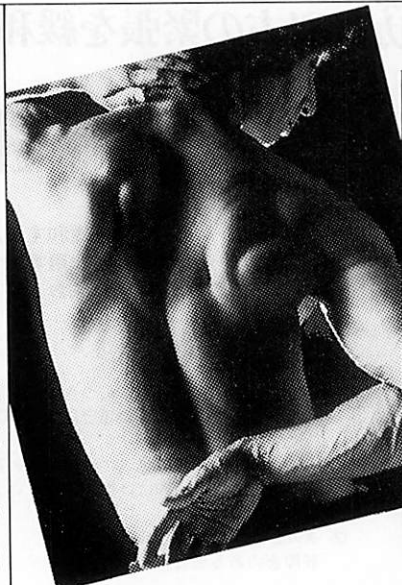
〈資料請求先〉

吉富製薬株式会社

〒541 大阪市中央区平野町二丁目6番9号

DP-8 (B5-1/2) 1989年2月作成©

炎症・疼痛性疾患の



急性上気道炎の
ねつといたみに

いたみとはれに

ニフランのプロスタグランジン生成抑制作用は、
胃・腸・腎で弱く、炎症部位で選択的に強力です。

〈効能・効果〉

- 下記疾患ならびに症状の消炎・鎮痛
慢性関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、
頸肩腕症候群、歯根膜炎
- 右記疾患の鎮痛・解熱 急性上気道炎
- 外傷後、小手術後ならびに抜歯後の
消炎・鎮痛

〈用法・用量〉

プラノプロフェンとして、通常成人1回
75mgを1日3回食後に経口投与する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。
頓用の場合には1回75mgを経口投与する。

※〈使用上の注意〉〈取扱い上の注意〉等
については添付文書をご参照下さい。

- 吸収が早く、速やかな解熱・鎮痛効果を示す。
- 選択的プロスタグランジン生成抑制作用を示す。

one step

代謝のプロピオン酸系鎮痛・抗炎症・解熱剤

ニフラン[®] 錠
プラノプロフェン



〈資料請求先〉

吉富製薬株式会社

〒541 大阪市中央区平野町二丁目6番9号

NF-2 (B5-1/2) 1989年2月作成

指先から、いい朝が。

昭和63年7月1日より
1回30日間分投薬が
認められました。



RAの自然経過を変える寛解導入剤



慢性関節リウマチ治療剤

指
薬指

カルフェニール 40mg錠 80mg錠
CARFENIL® Tablets 薬価基準収載

〔特性〕

1. RAの腫脹関節に対し、優れた改善が認められます。
2. 早期投与でより高い有用性が認められます。
3. 免疫パラメーターの異常を是正し、RAの臨床症状を改善します。

〔効能・効果〕 慢性関節リウマチ

〔使用上の注意〕— 抜粋 —

- (1) 一般的注意
- 1) 遅効性であるため従来より投与している消炎鎮痛剤等を併用すること。
 - 2) 活動性を有し、比較的早期発症の慢性関節リウマチに対して使用すること。
 - 3) 本剤投与中は腎機能、肝機能等の検査を定期的実施することが望ましい。
- (2) 次の患者には投与しないこと 重篤な腎障害のある患者
- (3) 次の患者には慎重に投与すること 1) 腎障害又はその既往歴のある患者 2) 肝障害のある患者 3) 消化性潰瘍又はその既往歴のある患者
- (4) 副作用
- 1) 腎 臓：ときにBUN上昇、血清クレアチニン上昇、血尿、蛋白尿等の腎障害があらわれることがあるので、観察を十分に行い異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
 - 2) 皮 膚：ときに発疹、蕁麻疹、痒痒感等の症状があらわれることがある。
 - 3) 消化器：ときに食欲不振、胃部不快感、胃痛、胃炎、胃重感、胃のもたれ、悪心、嘔吐、腹痛、下痢、胸やけ、口渇、舌のあれ、口内炎、便秘、腹部膨満感等の症状があらわれることがある。
 - 4) 肝 臓：ときにs-GOT、s-GPT、Al-Pの上昇があらわれることがある。
 - 5) その他：ときに浮腫、発熱、倦怠感、気分不良があらわれることがある。

*用法・用量、その他の使用上の注意、取扱い上の注意については添付文書をご覧ください。



中外製薬

〔資料請求先〕
〒104 東京都中央区京橋2-1-9

CCA 8675



(ポツィチェリ「春」より)



経皮新時代に向かって!

Yes, MOHRUS

指 経皮鎮痛消炎剤

〔薬価基準収載〕

モーラス® ケトプロフェン貼付剤 0.3%

■ 効能・効果

下記の疾患並びに症状の鎮痛・消炎
変形性関節症、肩関節周囲炎、
腱・腱鞘炎、腱周囲炎、
上腕骨上顆炎(テニス肘等)、筋肉痛

- モーラスは、ケトプロフェンを主成分とする経皮鎮痛消炎剤です。
- ケトプロフェンはすぐれた鎮痛消炎作用を有し、しかも経皮吸収性にすぐれています。
- すぐれた粘着性・伸縮性を有しているため、関節などの可動部位にも貼付できます。

使用上の注意

① 一般的注意

- (1) 消炎鎮痛剤による治療は原因療法ではなく、対症療法であることに留意すること。
- (2) 皮膚の感染症を不顕性化するおそれがあるので、感染を伴う炎症に対して用いる場合には適切な抗菌剤又は抗真菌剤を併用し、観察を十分に行い慎重に投与すること。
- (3) 慢性疾患(変形性関節症等)に対し本剤を用いる場合には薬効療法以外の療法も考慮すること。

また患者の状態を十分に観察し、副作用の発現に留意すること。


- ② 次の患者には使用しないこと
本剤に対して過敏症の既往歴のある患者。

③ 副作用

皮膚：ときに発疹、痒痒感及び刺激感があらわれることがある。これらの症状が強い場合は使用を中止すること。

その他の使用上の注意については添付文書を参照してください。

資料請求先

 久光製薬株式会社

〒51 東京都渋谷区代々木4-31-8

世界で最初のニューキノロン系抗菌剤

日本で ヨーロッパで そして、アメリカで

- バクシダールはキノロンカルボン酸にフッ素とピペラジンを導入したノルフロキサシンの製剤です。
- バクシダールはアメリカ、ヨーロッパ主要国を含め世界80か国余で発売されています。



上気道・尿路・皮膚感染症のファーストチョイスに。

広範囲経口抗菌剤(ニューキノロン系)

バクシダール®

バクシダール錠100mg・バクシダール錠200mg BACCIDAL Tab.

【特許】 ノルフロキサシン錠(略号:NFLX)

【効能・効果】ブドウ球菌属、レンサ球菌属、腸球菌、肺炎球菌、淋菌、大腸菌、シトロバクター属、サルモネラ属(チフス菌、パラチフス菌を除く)、シゲラ属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、コレラ菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、インフルエンザ菌、カンピロバクター属のうち本剤感受性菌による下記感染症

●咽喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎 ●腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎、淋菌性尿道炎 ●毛嚢(包)炎(膿疱性痤瘡を含む)、癬、よう、伝染性膿痂疹、蜂巣炎、皮下膿瘍、感染性粉瘤 ●胆のう炎、胆管炎 ●細菌性赤痢、腸炎、コレラ ●中耳炎、副鼻腔炎

【使用上の注意】1. 次の患者には投与しないこと 本剤に対し過敏症の既往歴のある患者 2. 次の患者には慎重に投与すること 高度の腎障害のある患者 3. 副作用 (1)ショック まれにショック症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、血圧低下、呼吸困難、胸内苦悶等の症状があらわれた場合には、投与を中止し適切な処置を行うこと。

用法・用量、その他の使用上の注意(妊婦、授乳婦への投与等)は添付文書をご覧ください。



製造元 販売元
杏林製薬株式会社/杏林薬品株式会社
東京都千代田区神田駿河台2-5 東京都千代田区神田駿河台2-5

(資料請求先:杏林製薬医薬情報部)

薬価基準収載

(昭和63年8月作成)

The Advanced Gold Therapy

RAと診断されたら——リドーラ



■効能・効果

慢性関節リウマチ（過去の治療において非ステロイド性抗炎症剤により十分な効果の得られなかったもの）

■用法・用量

通常成人にはオーラノフィンとして1日6mg（本剤2錠）を朝食後及び夕食後の2回に分割経口投与する。なお、1日6mgを超える用量は投与しないこと。

■使用上の注意

1. 一般の注意

- 1) 本剤の投与に当たっては、全療法を含む慢性関節リウマチの治療法を十分に把握していること。
- 2) 過去の治療において非ステロイド性抗炎症剤により十分な効果の得られなかった症例に使用すること。なお、罹病期間が比較的短く、骨破壊や関節変形等の進んでいない活動性の慢性関節リウマチに対し本剤の使用を考慮すること。
- 3) 本剤は遅効性であり、6ヵ月以降に効果がみられる例もあるが、通常、効果は1〜3ヵ月後より発現するので、少なくとも3ヵ月以上継続投与すること。なお、従来より投与している非ステロイド性抗炎症剤はその間継続して併用することが望ましい。
- 4) 本剤ならびに疾患の特性を考慮して、治療に当たっては経過を十分に観察し、漫然と投与を継続しないこと。
- 5) 本剤の投与開始に先立ち、主な副作用を患者に説明し、特に下痢、痒疹、発疹、口内炎等の症状が認められた場合は、速やかに主治医に連絡するよう指示すること。
- 6) 本剤投与前には必ず血液検査（赤血球数、血色素量、白血球数、白血球分類及び血小板数）、肝機能検査（トランスアミナーゼ、アルカリフォスファターゼ）、腎機能検査及び尿検査（蛋白、沈渣）を実施すること。投与中は毎月1回血液検査（赤血球数、血色素量、白血球数、白血球分類及び血小板数）及び尿検査（蛋白、沈渣）を行うこと。また、その他の検査項目については必要に応じて実施すること。
なお、臨床検査のうち白血球数、血小板数及び尿蛋白の検査値が下記のいずれかの値を示したときは、投与を中止し適切な処置を行うこと。

白血球数……3,000/mm³未満 血小板数……100,000/mm³未満
尿蛋白……持続的または増加傾向を示す場合、及び血尿が認められた場合

2. 次の患者には投与しないこと

- 1) 金製剤による重篤な副作用の既往のある患者
- 2) 腎障害、肝障害、血液障害あるいは重篤な下痢、消化器潰瘍等のある患者
- 3) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人
- 4) 小児

3. 次の患者には慎重に投与すること

- 1) 金製剤による副作用の既往のある患者
- 2) 重篤な消化器障害、腎障害、肝障害、血液障害あるいは薬物過敏症の既往のある患者
- 3) じん麻疹、乾癬等慢性皮膚症のある患者

4. 副作用

次の症状があらわれることがあるので、観察を十分行い、このような症状があらわれた場合には、経過を観察し、必要に応じて休薬、投与を中止する等適切な処置を行うこと。

- 1) 皮膚：粘膜炎、発疹、痒疹、ときに口内炎、舌炎、脱毛、結膜炎、じん麻疹、紅斑、光線過敏症等
- 2) 消化器：下痢・軟便、ときに胃痛、腹痛、消化不良、悪心、嘔吐、食欲不振、腹部膨満、下血、胃潰瘍、便秘、口渇等
- 3) 血液：ときに白血球減少、好酸球増多、血小板減少、貧血、純系赤血球無形成症等
- 4) 腎：ときにBUNの上昇、蛋白尿、血尿等
- 5) 肝：ときにGOT、GPT、アルカリフォスファターゼの上昇
- 6) 呼吸器系：まれに間質性肺炎
- 7) その他：ときに浮腫、体重減少、味覚異常、発熱、動悸、脱力感、鼻出血、頭痛、耳鳴、めまい、IgA低下
なお外国では、ときに歯肉炎、消化管出血、好中球減少、まれに嚥下困難、潰瘍性大腸炎、無顆粒球症、黄疸、末梢神経障害等の副作用が報告されている。
5. 過量投与
誤って過量投与した場合には、催吐、胃洗浄等を行うとともに適切な療法を行うこと。

*その他の使用上の注意、取扱い上の注意等については、製品添付文書を御参照下さい。

RA寛解導入剤（オーラノフィン）

リドーラ錠
Ridaura® (制指)要指 健保適用

資料請求先

SK スミスクライン・藤沢株式会社
SARTH KLINE & FUJISAWA 東京都千代田区三番町6番地 千102 学術部

製造 **藤沢薬品工業株式会社**
大阪市中央区道修町3-4-7 千541

販売 **スミスクライン・藤沢株式会社**
東京都千代田区三番町6番地 千102

健保適用

(適応症)

下記疾患における筋緊張状態の改善

- 頸肩腕症候群
- 腰痛症
- 下記疾患による痙性麻痺
- 脳卒中後遺症
- 脳性麻痺
- 多発性硬化症
- 頸部脊椎症
- 後縦靭帯骨化症
- 外傷後遺症
(脊髄損傷・頭部外傷)
- 術後後遺症
(脳・脊髄腫瘍等手術後)
- スモン(SMON)
- 痙性脊髄麻痺
- 筋萎縮性側索硬化症
- 小脳脊髄変性症

※用法・用量、使用上の注意等は
包装D.I.をご参照ください。

筋緊張異常を
そつと柔らげます。

- 1 静穏作用(トランキライザー作用)、むし気・脱力感などのきわめて少ない抗痙縮剤です。
- 2 脳卒中後遺症、頸部脊椎症等の痙麻痺による歩きにくさ、つらばり感等を改善し、運動機能を高めます。
- 3 頸肩腕症候群、腰痛症に伴う痛み、こりしびれ等の筋緊張付感等を改善します。

中枢神経疾患、筋緊張異常に

ムスカルム[®]

S錠 (要指) (指定)

D錠 (要指) (指定)

日本化薬